

令和7年度 第1回 愛媛県森林環境保全基金運営委員会

日時：令和7年7月15日(火) 13:30～15:30

場所：愛媛県林業会館 3階 大ホール

次 第

1 開 会

2 開会あいさつ

3 議 事

(1) 第1号議案

令和6年度 愛媛県森林環境税活用事業の実績報告について

(2) 第2号議案

令和7年度 愛媛県森林環境税活用事業について

(3) その他

4 閉会あいさつ

5 閉 会

愛媛県森林環境保全基金運営委員会委員名簿

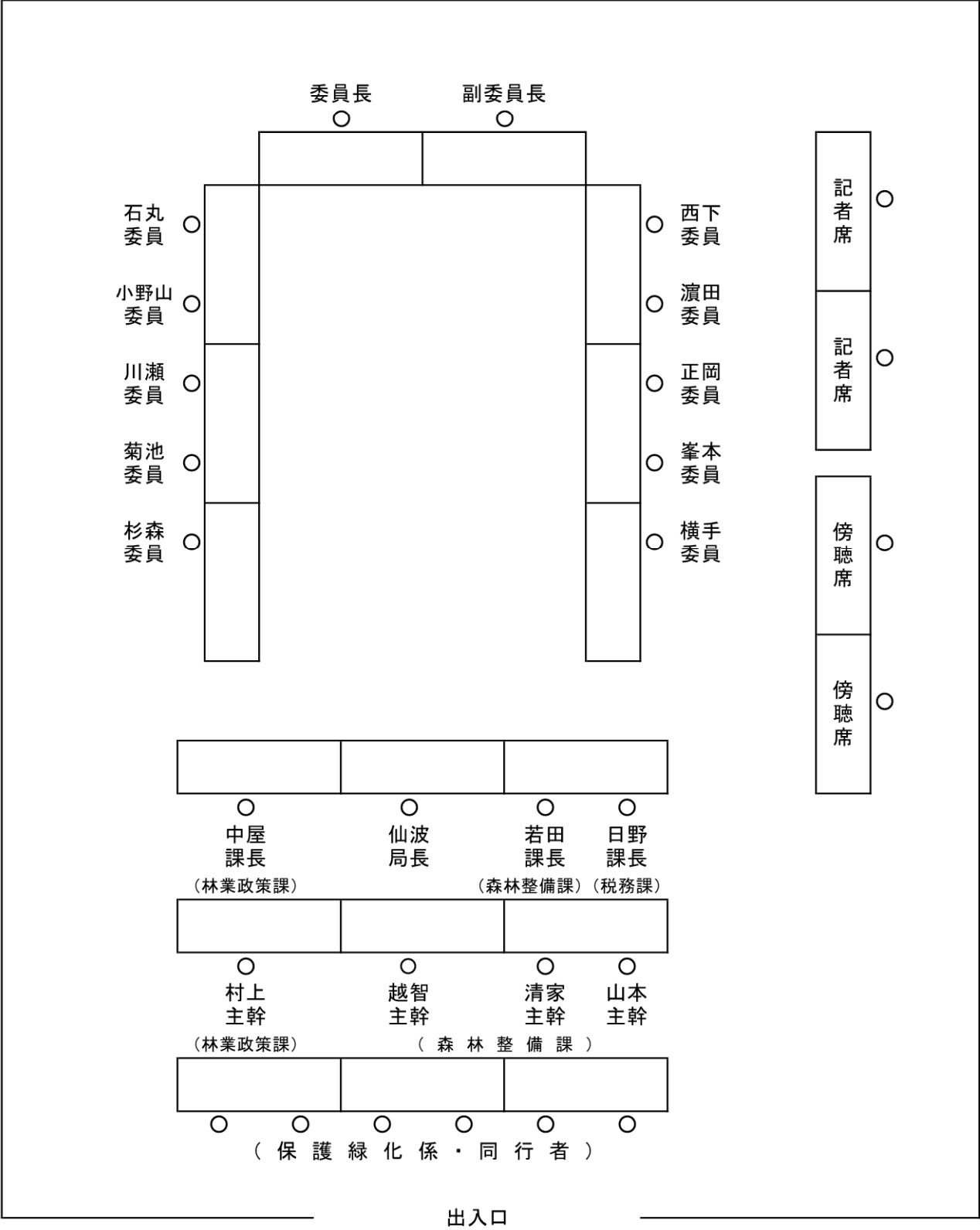
任期 { 令和7年 4月 1日
令和9年 3月 31日

職種	現職	氏名	備考
一般県民 (公募)	石丸真智子建築設計室 代表	イシマル マチコ 石丸 真智子	
消費者代表	愛媛県農山漁村生活研究協議会 会長	オノヤマ カヲリ 小野山 かをり	
福祉関係者	愛媛大学教育学部 准教授	カワセ クミコ 川瀬 久美子	
林業関係者	愛媛県林業研究グループ連絡協議会 会長	キクチ シュンイチロウ 菊池 俊一郎	
学識経験者	愛媛大学 副学長	スギモリ マサトシ 杉森 正敏	
木材関係者	株式会社共栄木材 代表取締役	ニシタ フンペイ 西下 文平	
漁業関係者	愛媛県青年漁業者連絡協議会 副会長	ハマダ ケン 濱田 賢	
企業関係者	(一社)愛媛県建築士事務所協会 副会長	マサオカ ヒデキ 正岡 秀樹	
環境教育 関係者	元愛媛県教育委員会 委員	ミネモト ヨウコ 峯本 陽子	
森林ボランティア 関係者	えひめ森の案内人会 副会長	ヨコテ ヒロコ 横手 裕子	

敬称略、五十音順。

令和7年度 第1回 愛媛県森林環境保全基金運営委員会配席図

日時： 令和7年7月15日(火) 13:30～15:30
場所： 愛媛県林業会館 3階 大ホール



○愛媛県森林環境保全基金条例

平成16年12月24日 条例第50号

愛媛県森林環境保全基金条例を次のように公布する。

愛媛県森林環境保全基金条例

(設置)

第1条 水源のかん養、県土の保全、地球温暖化の防止、生物多様性の確保その他の森林の有する公益的機能の重要性にかんがみ、森林環境の保全及び森林と共生する文化の創造に関する施策を推進するため、森林環境保全基金（以下「基金」という。）を設置する。

(積立て)

第2条 基金として積み立てる額は、愛媛県森林環境税条例（平成16年愛媛県条例第46号）の規定による森林環境税の収入額に相当する額から賦課徴収に要する費用を控除した額で一般会計歳入歳出予算（以下「予算」という。）で定める額とする。

(管理)

第3条 基金に属する現金は、金融機関への預金その他最も確実かつ有利な方法により保管しなければならない。

(運用益金の処理)

第4条 基金の運用から生ずる収益は、予算に計上して、基金に編入する。

(処分)

第5条 基金は、第1条の目的を達成するための事業に要する経費並びに基金の管理及び運営に要する経費に充てるため、その全部又は一部を処分することができる。

(繰替運用)

第6条 知事は、財政上必要があると認めるときは、確実な繰戻しの方法、期間及び利率を定めて、基金に属する現金を歳計現金に繰り替えて運用することができる。

(愛媛県森林環境保全基金運営委員会)

第7条 第5条に規定する事業に関する事項その他基金に関する事項を調査審議させる等のため、愛媛県森林環境保全基金運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会は、委員10人以内で組織する。
- 3 委員は、学識経験のある者その他適当と認められる者のうちから、知事が委嘱する。
- 4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 委員は、再任されることができる。
- 6 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、基金の管理及び運営に関し必要な事項は、知事が定める。

附 則

この条例は、平成17年4月1日から施行する。

○愛媛県森林環境保全基金運営委員会規則

平成17年3月11日規則第9号

愛媛県森林環境保全基金運営委員会規則を次のように定める。

愛媛県森林環境保全基金運営委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、愛媛県森林環境保全基金条例（平成16年愛媛県条例第50号）第8条の規定に基づき、愛媛県森林環境保全基金運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(委員)

第2条 委員の任期が満了したときは、当該委員は、後任者が委嘱され、又は任命されるまで引き続きその職務を行うものとする。

2 知事は、委員が心身の故障のため職務の執行ができないと認めるとき、又は委員に職務上の義務違反その他委員たるに適しない非行があると認めるときは、その委員を罷免することがある。

(委員長及び副委員長)

第3条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 会議は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会議は、公開する。ただし、委員長が特に必要があると認めるときは、会議の全部又は一部を公開しないことができる。

(参考人)

第5条 委員会は、調査審議等のため必要があるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、農林水産部森林局森林整備課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

第1号議案

令和6年度愛媛県森林環境税活用事業の実績
報告について

令和6年度 森林環境保全基金事業実績の概要

(単位：千円)

項 目			予算額(a)	決算額(b)	差引(b－a)
歳入	税収見込み額		547,269	547,269	0
	運用利息		308	234	△ 74
	前々年度の税収超過額		7,118	7,117	△ 1
	前年度残額		56,358	56,358	0
	歳入合計(A)		611,053	610,978	△ 75
歳出	県指定事業	森をつくる活動	237,034	211,488	△ 25,546
		木をつかう活動	218,808	178,917	△ 39,891
		森とくらす活動	30,184	28,652	△ 1,532
	公募	公募事業	15,000	13,398	△ 1,602
	事業計(B)		501,026	432,455	△ 68,571
	全国植樹祭 積立額(C)		110,000	110,000	0
	次年度繰越金(D)		27	68,523	68,496
	歳出総計(B＋C＋D)		611,053	610,978	△ 75
差引残額(A－B－C－D)			0	0	0

令和6年度 森林環境保全基金事業実績

(単位:千円)

区分	歳入内訳	予算額	決算額	差引
森林環境 保全基金 積立金	税収見込み額	547,269	547,269	0
	運用利息	308	234	△ 74
	前々年度の税収超過額	7,118	7,117	△ 1
	前年度残額	56,358	56,358	0
	積立金総計(A)	611,053	610,978	△ 75

区分	歳出内訳(予算事業名)	予算額	決算額	差引
県 指 定 事 業	森をつくる活動	237,034	211,488	△ 25,546
	① 森林整備推進事業(造林事業費)	68,080	65,854	△ 2,226
	② 集落等山地災害危険地区整備事業費	40,000	32,018	△ 7,982
	③ フォレスト・マイスター養成支援事業費	14,804	13,579	△ 1,225
	④ 有害鳥獣総合捕獲事業費	51,780	44,545	△ 7,235
	⑤ 特定鳥獣保護管理計画推進事業費	5,316	5,299	△ 17
	⑥ 優良種苗確保事業費	29,303	25,799	△ 3,504
	⑦ 林業躍進プロジェクト推進事業費	5,897	4,645	△ 1,252
	⑧ 県産大径材生産促進事業費	7,993	7,946	△ 47
	⑨ 森林カーボンオフセット促進事業費	2,772	1,804	△ 968
	⑩ スマート林業人材育成研修事業費	1,996	1,715	△ 281
	⑪ エリートツリー活用省力化モデル事業費	5,000	4,665	△ 335
	⑫ えひめ農林水産業魅力発信事業費	1,318	874	△ 444
	⑬ 新規林業就業者育成事業費	2,775	2,745	△ 30
	木をつかう活動	218,808	178,917	△ 39,891
	① 木質バイオマス利用促進事業費	24,730	17,900	△ 6,830
	② CLT等建築物建設促進事業費	77,963	68,602	△ 9,361
	③ 木の香る公園施設整備費	2,000	2,000	0
	④ えひめ材住宅普及啓発事業費	70,373	48,152	△ 22,221
	⑤ 愛媛県産材製品市場開拓促進事業費	13,710	13,566	△ 144
	⑥ 特用林産物生産販売促進事業費	19,951	18,616	△ 1,335
	⑦ 南予家畜保健衛生所整備事業	2,081	2,081	0
	⑧ 愛媛県立北宇和高等学校馬術部厩舎改築事業	8,000	8,000	0
	森とくらす活動	30,184	28,652	△ 1,532
	① 県民と森との交流促進事業費	18,550	17,256	△ 1,294
	② 「森に親しむ博物館」開催事業費	3,090	3,090	0
	③ 森林病虫獣害対策事業費	2,164	2,164	0
	④ アートの森プロジェクト	1,800	1,798	△ 2
	⑤ えひめ森林公園魅力発信事業	4,580	4,344	△ 236
公募	県民参加の森林づくり公募事業費	15,000	13,398	△ 1,602
事業 総計(B)		501,026	432,455	△ 68,571
全国植樹祭 積立額 (C)		110,000	110,000	0
総計(B+C)		611,026	542,455	△ 68,571

差額 D= (A-B-C) ※次年度繰越金	27	68,523	68,496
-----------------------	----	--------	--------

[全国植樹祭積立金事業]

(単位:千円)

区分	歳入内訳	予算額	決算額	差引
全国 植樹祭 積立金	R6年度積立額	110,000	110,000	0
	R5年度までの積立残額	207,183	207,183	0
	積立金総計(E)	317,183	317,183	0

区分	歳出内訳	予算額	決算額	差引
関 連 事 業	① 全国植樹祭開催準備費	35,607	35,607	0
	② えひめ森林公園魅力発信事業費	6,959	6,698	△ 261
	事業総計(F)	42,566	42,305	△ 261

差額(E-F) ※次年度繰越金	274,617	274,878	261
-----------------	---------	---------	-----

※四捨五入の調整あり。

森林環境税の事業目標の達成状況

第 1 期森林環境税の実績（H17～21年度）

項目	目標 数値	単位	実 績							備考
			H17	H18	H19	H20	H21	計	達成率 (%)	
森林整備面積	1,700	ha	73	274	625	1,016	4,321	6,309	371	
木材使用量	31,000	m3	－	4,848	2,672	5,725	14,054	27,299	88	H18開始
県民参加人数	230,000	人	20,853	60,232	112,330	178,134	257,680	629,229	274	

第 2 期森林環境税の実績（H22～26年度）

項目	目標 数値	単位	実 績							備考
			H22	H23	H24	H25	H26	計	達成率 (%)	
森林整備面積	10,325	ha	3,616	3,776	1,247	804	477	9,920	96	
木材使用量	60,000	m3	23,514	21,475	27,936	37,252	31,302	141,479	236	
県民参加人数	720,000	人	203,631	107,942	73,908	161,107	113,239	659,827	92	

第 3 期森林環境税の実績（H27～R元年度）

項目	目標 数値	単位	実 績							備考
			H27	H28	H29	H30	R元	計	達成率 (%)	
森林整備面積	8,840	ha	1,487	1,460	1,470	1,508	1,536	7,461	84	
木材使用量	140,000	m3	55,172	73,216	100,030	120,928	136,802	486,148	347	
県民参加人数	720,000	人	124,623	129,728	136,869	127,186	512,355	1,030,761	143	

第 4 期森林環境税の実績（R 2～R 6 年度）

項目	目標 数値	単位	実 績							備考
			R2	R3	R4	R5	R6	計	達成率 (%)	
森林整備面積	7,600	ha	1,190	1,135	1,222	1,265	1,077	5,889	77	
木材使用量	210,000	m3	91,784	91,112	90,400	95,040	94,467	462,803	220	
県民参加人数	720,000	人	359,228	320,847	486,162	550,411	241,698	1,958,346	272	

実績計（H17～R6）

項目	目標総数	単位	総実績	達成率 (%)
森林整備面積	28,465	ha	29,579	104
木材使用量	441,000	m3	1,117,729	253
県民参加人数	2,390,000	人	4,278,163	179

令和6年度 県指定事業

森をつくる活動 関係事業

① 森林整備推進事業（造林事業）

「えひめ農林水産業振興プラン2021」による森林整備を一層強化するため、国庫補助の対象とならない森林施業等に支援を行い、森林の持つ公益的機能の高度発揮と林業の活性化、ひいては、地球温暖化防止に貢献します。

1 ポイント

「えひめ農林水産業振興プラン 2021」に基づき、森林が持つ地球温暖化防止や水源涵養及び県土保全機能等の高度発揮を図るため、森林整備を積極的に推進し、同プランの目標達成に取り組んでいます。

本事業では、国庫補助の対象とならない森林所有者自ら実施する森林施業等に対する支援を行うことによって、同プランの目標達成に寄与するとともに、森林の保全・整備と林業・木材産業の振興を図るものです。

2 事業内容及び採択要件等

事業種	事業内容	採択要件
①自伐林家支援事業	国庫補助事業の対象とならない森林所有者等が自ら行う森林施業に対し、支援を行う。 (実施主体：森林所有者等)	・対象施業は、植栽、獣害対策、下刈、間伐、森林作業道開設等 ・1施行地の面積が0.05ha以上
②未整備森林再生事業	国庫補助事業の対象とならない林業事業体等が行う森林施業等に対し、支援を行う。 (実施主体：森林組合、林業事業体等)	・対象施業は、更新伐、森林作業道改良等 ・1施行地の面積が0.10ha以上
③林業架線作業支援	国庫補助事業の対象とならない林業事業体等が行う林業架線による森林施業に対し、支援を行う。 (実施主体：林業事業体等)	・林業架線による木材生産等 ・1施行地の面積が0.50ha以上

3 令和6年度実績

(1) 実績額 65,854 千円

(2) 実施状況



間伐



更新伐



架線作業

4 事業期間 令和2年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	計
計画	森林整備面積 (ha)	349	308	173	233	283	1,346
	金額(千円)	141,768	56,717	56,717	67,000	68,080	390,282
	うち森林環境税(千円)	78,503	56,717	56,717	67,000	68,080	327,017
実績	森林整備面積 (ha)	259	148	122	194	135	858
	金額(千円)	140,828	56,098	56,442	64,949	65,854	384,171
	うち森林環境税(千円)	77,563	56,098	56,442	64,949	65,854	320,906
実施箇所		県下全域	県下全域	県下全域	県下全域	県下全域	

② 集落等山地災害危険地区整備事業

「山地災害危険地区」のうち土砂流出防止機能等が著しく低下し、降雨によって集落等に被害を及ぼす恐れのある地区の森林について、本数調整伐等を実施し、下層植生を導入するなど土砂流出防止機能の高い健全な森林へと誘導します。

1 ポイント

近年、局地集中豪雨や大規模地震等の異常天然現象が増加する傾向にあり、山地災害の様相が大きく変化していることから、継続的な公共治山事業と併せて、これまで想定していなかった山地災害に対する新たな対応が求められています。

本事業では、公共治山事業として採択されない「山地災害危険地区」のうち土砂流出防止機能等が著しく低下し、降雨等で集落等に被害を及ぼす可能性が高い地区の森林等を緊急に整備して山地災害危険地の解消を図ることとしています。

2 事業内容

(1) 溪流タイプ ・本数調整伐（間伐率 40%程度） ・簡易木製構造物（木製ダム・柵工等） ・その他森林機能回復のために必要なもの (2) 山腹タイプ ・本数調整伐（間伐率 40%程度） ・簡易木製構造物（木製土留工、柵工等） ・その他森林機能回復のために必要なもの (3) 機能回復タイプ ・溪流内や既存治山施設に異常堆積した土石や流木等の除去 ・既存治山施設の軽微な修復	【実施場所】 県が定めている山地災害危険地区であって、民有林治山事業の採択基準を満たさない箇所であること。 【事業主体】 県 【採択要件】 林分が過密化等して土砂流出防止機能等が低下している箇所で、次のいずれかに該当するもの。 ① 溪流タイプ 現に森林が荒廃等して溪流に土砂の流出が認められる箇所で、整備対象森林面積が 10ha 以上、かつ、1 箇所の工事費（全体計画額）が 500 万円以上であること。 ② 山腹タイプ 人家 5 戸以上の集落後背部の森林で、整備対象面積が 5 ha 以上、かつ、1 箇所の工事費（全体計画額）が 250 万円以上であること。 ③ 機能回復タイプ 集落後背部の森林で、台風災害等により、土石や流木等の不安定堆積物が異常堆積し、森林が有する災害防止機能や既存治山施設の機能が低下している箇所であること。
--	---

3 令和 6 年度実績

- (1) 実績額 32,018 千円（事務費含む）
- (2) 実施状況



山腹タイプ（本数調整伐）



機能回復タイプ（既存治山施設の修復）

4 事業期間 令和2年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	計
計画	山地保全面積	70ha	70ha	70ha	70ha	70ha	350ha
	事業費	40,000千円	40,000千円	40,000千円	40,000千円	40,000千円	200,000千円
	うち森林環境税	40,000千円	40,000千円	40,000千円	40,000千円	40,000千円	200,000千円
実績	山地保全面積	45.19ha	18.86ha	24.41ha	14.65ha	4.85ha	107.96ha
	作業歩道等	1,233m	0m	515m	160m	0m	1,908m
	事業費	38,898千円	39,255千円	39,314千円	39,269千円	32,018千円	188,754千円
	うち森林環境税	38,898千円	39,255千円	39,314千円	39,269千円	32,018千円	188,754千円
実施箇所		四国中央市(1) 西条市(1) 今治市(1) 砥部町(1) 大洲市(2) 西予市(1)	四国中央市(1) 西条市(1) 今治市(1) 久万高原町(1) 大洲市(2)	西条市(1) 今治市(2) 久万高原町(1) 大洲市(2) 西予市(1)	西条市(1) 伊予市(1) 久万高原町(1) 大洲市(1) 内子町(1)	松山市(1) 伊予市(1) 宇和島市(1) 内子町(1) 鬼北町(1)	

③ フォレスト・マイスター養成支援事業

公益的機能を持つ森林を面的・効率的に整備する林業技術者（フォレストワーカー）と作業管理者（フォレスト・マイスター）を養成するとともに、異業種から参入する事業体を育成する研修や林業事業体と就業希望者とのマッチングを促進するための就業相談会を実施します。

1 ポイント

森林の持つ公益的機能を発揮するためには、適切な森林整備とそれに伴う木材生産の実施、搬出される木材の多面的利用を推進する必要があります。しかし、森林整備を行う林業の担い手は、減少しており、時代の要請に応える林業の担い手の確保が急務となっています。

このため、新規就業を希望する者に林業を行う上で必要な基本的知識・技術・資格を取得する研修を実施し、現場作業を担う林業技術者（フォレストワーカー）を養成するとともに、現場作業班のリーダー及び現場作業の管理者（フォレスト・マイスター）を養成し、林業の担い手の確保育成を図ります。

さらに、異業種から林業界へ新規に参入する事業体等に対し現地研修等を実施するとともに、県内の林業事業体と就業希望者とのマッチングを促進するための就業相談会を開催し、幅広く林業の担い手を確保することとしています。

2 事業内容

(1) フォレストワーカー養成コース 対象人数 年間 7 名 【実績 15 名】 研修期間 25 日間	森林整備に必要な基本的知識・技術・資格等の習得研修 （緑の雇用担い手確保育成対策事業と共催で実施） ○講習内容：林業の基礎知識、造林育林技術、伐採技術、機械の構造と仕組み、森林病虫害の防除 ○取得資格：玉掛技能講習、小型車両系建設機械運転業務特別教育（整地等）、伐木等の業務に係る特別教育、刈払機取扱作業安全衛生教育、走行集材機械の運転の業務の特別教育
(2) 林業架線作業技術コース 対象人数 年間 14 名 【実績 9 名】 研修期間 30 日間	林業架線作業に必要な基本的知識・技術・資格等の習得研修 ○講習内容：架線知識、架線法令、架線力学、架線設計、架線の架設・撤去、集材機操作、タワヤーダ架設・撤去、スイングヤーダ架設・撤去、ワイヤーロープ実習、架線現場視察 ○取得資格：林業架線作業主任者免許、小型移動式クレーン運転技能講習、簡易架線集材装置等の運転の特別教育、機械集材装置の運転の業務特別教育、はい作業従事者安全教育
(3) 高性能林業機械作業技術コース 対象人数 年間 12 名 【実績 6 名】 研修期間 39 日間	高性能林業機械活用およびコスト管理に必要な知識・技術・資格等の研修 ○講習内容：高性能林業機械の基本操作、高性能林業機械の構造と仕組み、スイングヤーダ架設・撤収、システム運用実習、間伐作業の技術・経営・コスト管理 ○取得資格：大型自動車運転免許、車両系建設機械（整地等・解体）技能講習、不整地運搬車技能講習、フォークリフト運転技能講習、はい作業主任者技能講習、走行集材機械の運転の業務の特別教育、伐木等機械の運転業務の特別教育、簡易架線集材装置等の運転の特別教育
(4) 安全衛生教育指導者育成コース 対象人数 年間 5 名 【実績 5 名】 研修期間 3 日間	安全衛生及び技術向上に関する高度な指導者の養成研修 ○講習内容 伐木等作業に関する安全管理と KYT 活動の進め方

森をつくる活動

3 令和6年度実績

(1) 実績額 13,579 千円

(2) 実施状況



フォレストワーカー養成コース



林業架線作業技術コース



高性能林業機械作業技術コース



安全衛生教育指導者育成コース

4 事業期間 令和2年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	計
計画	森林整備面積	4 0 ha	4 0 ha	4 0 ha	4 0 ha	4 0 ha	2 0 0 ha
	研修受講者数	2 5 8 人	2 5 0 人	2 5 8 人	1 5 8 人	1 5 8 人	1, 0 8 2 人
	事業費	21, 561 千円	21, 311 千円	28, 416 千円	26, 950 千円	14, 804 千円	113, 042 千円
	うち森林環境税	18, 839 千円	18, 639 千円	18, 639 千円	17, 323 千円	14, 804 千円	88, 244 千円
実績	森林整備面積	4 4 ha	5 8 ha	6 2 ha	7 4 ha	7 0 ha	3 0 8 ha
	研修受講者数	2 6 6 人	3 2 3 人	3 3 9 人	1 2 6 人	3 5 人	1, 0 8 9 人
	事業費	20, 000 千円	19, 905 千円	20, 662 千円	23, 081 千円	13, 579 千円	97, 227 千円
	うち森林環境税	17, 278 千円	17, 480 千円	18, 066 千円	17, 215 千円	13, 579 千円	83, 618 千円
実施箇所		県内一円	県内一円	県内一円	県内一円	県内一円	

④ 有害鳥獣総合捕獲事業（一部森林環境税事業）

ニホンジカによる農林業等に係る被害を軽減し、森林等の公益的機能の保全や農林業従事者の生産意欲の減退を防ぐため、市町が行うニホンジカ捕獲事業を支援します。

1 ポイント

近年、ニホンジカによる森林被害や農作物被害が深刻化しているため、市町が行うニホンジカ捕獲事業を支援し、ニホンジカの捕獲を強化します。

2 事業内容

有害鳥獣総合捕獲事業

①補助対象

市町が、ニホンジカの捕獲を強化するため、銃器又はわなによりニホンジカを捕獲した者に対し、奨励金の交付等を行うのに要する経費に対して補助

②事業実施主体 市町

③補助率 1／2以内

④基準経費 10,000円／頭

3 令和6年度実績

(1) 実績額 44,545千円（全体事業費108,555千円）

(2) 実施状況 ニホンジカ捕獲頭数 9,331頭

4 事業期間 令和2年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	計
計画	捕獲計画数（全体）	8,315頭	8,315頭	10,800頭	10,800頭	10,800頭	49,030頭
	捕獲計画数 （森林環境税分）	7,871頭	7,871頭	10,356頭	10,356頭	10,356頭	46,810頭
	事業費	83,150千円	83,150千円	108,000千円	108,000千円	108,000千円	490,300千円
	うち森林環境税	39,355千円	39,355千円	51,780千円	51,780千円	51,780千円	234,050千円
実績	捕獲実績数（全体）	8,065頭	9,447頭	8,638頭	9,977頭	9,331頭	45,458頭
	捕獲実績数 （森林環境税分）	8,065頭	9,447頭	8,638頭	9,977頭	9,331頭	45,458頭
	事業費	89,864千円	110,165千円	100,747千円	110,345千円	108,555千円	519,676千円
	うち森林環境税	39,355千円	39,355千円	42,228千円	46,785千円	44,545千円	212,268千円
実施箇所		18市町 松山市、今治市、宇和島市、八幡浜市、新居浜市、西条市、大洲市、伊予市、四国中央市、西予市、東温市、砥部町、久万高原町、内子町、伊方町、松野町、鬼北町、愛南町	18市町 松山市、今治市、宇和島市、八幡浜市、新居浜市、西条市、大洲市、伊予市、四国中央市、西予市、東温市、砥部町、久万高原町、内子町、伊方町、松野町、鬼北町、愛南町	18市町 松山市、今治市、宇和島市、八幡浜市、新居浜市、西条市、大洲市、伊予市、四国中央市、西予市、東温市、砥部町、久万高原町、内子町、伊方町、松野町、鬼北町、愛南町	ニホンジカにより森林被害及び農作物被害を受けている市町	ニホンジカにより森林被害及び農作物被害を受けている市町	

⑤ 特定鳥獣保護管理計画推進事業（一部森林環境税事業）

ニホンジカによる生態系被害等を抑制するため、個体数を適正に推定するための生息調査等を実施するとともに、これまで捕獲が進まなかった高標高地域等での、個体数調整を目的とした計画的な捕獲を実施します。また、イノシシについても捕獲等が進んでいない自然公園を対象として捕獲を実施します。

1 ポイント

ニホンジカによる農林業被害等が深刻な状況にあり、平成 25 年 12 月、環境省と農林水産省が「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」をとりまとめ、ニホンジカの個体群を令和 10 年度までに半減させることを目指しています。

県では適正管理計画を策定し、増えすぎたニホンジカを適正な生息数にするよう、生息密度調査等を実施し、個体数を推定するとともに、捕獲目標の達成のため、認定鳥獣捕獲等事業者等による積極的な個体調整（捕獲）を推進しました。また、イノシシについても捕獲等が進んでいない自然公園を対象として捕獲を実施しました。

2 事業内容

- (1) ニホンジカの食害による自然植生の喪失を早期かつ確実に抑制・防止するため、石鎚山系及び石鎚山系に侵入が危惧される東予東部地域、東予西部・中予北東部地域の個体数調整を行うとともに、被害の著しい南予南部地域の個体数調整を、集中的かつ広域的に実施しました。またイノシシについては、捕獲作業が進んでいない自然公園（今治市：湯ノ浦地区）で捕獲作業を実施しました。



- (2) ニホンジカ、イノシシの生活環境、農林業及び生態系に係る被害への対策に寄与するため、生息密度の推定を行いました。ニホンジカについては、県下 40 ルートでの糞塊密度調査の結果や捕獲頭数等から、イノシシについては、捕獲頭数等をもとに算出しました。

3 令和 6 年度実績

- (1) 実績額 5,299 千円（全体事業費 24,710 千円）
(2) 実施状況



4 事業期間 令和2年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	計
計画	調査地点数 (生息密度)	40	40	40	40	40	200
	調査地点数 (植物被害)	17	17	17	17	17	85
	捕獲従事者数 (延べ)	400人	400人	400人	400人	400人	2,000人
	事業費	30,660千円	28,500千円	28,500千円	30,000千円	27,001千円	144,661千円
	うち森林環境税	9,200千円	6,900千円	6,900千円	6,900千円	5,316千円	35,216千円
実績	調査地点数 (生息密度)	40	40	40	40	40	200
	調査地点数 (植物被害)	17	40	—	—	—	57
	捕獲従事者数 (延べ)	740人	356人	449人	396人	472人	2,413人
	事業費	27,567千円	21,157千円	20,629千円	23,518千円	24,710千円	117,581千円
	うち森林環境税	8,866千円	3,905千円	4,661千円	5,093千円	5,299千円	27,824千円
実施箇所		[生息密度調査] 県内40地点 [植生衰退度調査] 県内80地点 [捕獲箇所] 石鎚山系、東予東部 地域、東予西部・中 予北東部地域、南予 南部地域	[生息密度調査] 県内40地点 [植生衰退度調査] 県内40地点 [捕獲箇所:シカ] 石鎚山系、東予東部 地域、東予西部・中 予北東部地域、南予 南部地域 [捕獲箇所:イノシシ] 今治市(塔ノ峰園地 周辺)	[生息密度調査] 県内40地点 [捕獲箇所:シカ] 石鎚山系、東予東部 地域、東予西部・中 予北東部地域、南予 南部地域 [捕獲箇所:イノシシ] 今治市(塔ノ峰園地 周辺)	[生息密度調査] 県内40地点 [捕獲箇所:シカ] 石鎚山系、東予東部 地域、東予西部・中 予北東部地域、南予 南部地域 [捕獲箇所:イノシシ] 松山市・今治市(奥 道後玉川県立自然 公園周辺)	[生息密度調査] 県内40地点 [捕獲箇所:シカ] 石鎚山系、東予東部 地域、東予西部・中 予北東部地域、南予 南部地域 [捕獲箇所:イノシシ] 今治市(湯ノ浦地区)	

⑥ 優良種苗確保事業（一部森林環境税事業）

林木の品種改良、種子採取源の整備等を行い、優良な種穂の供給を確保するとともに、林業躍進プロジェクトの推進に向けて、低コスト再造林の実現が課題となっていることから、通年植栽が可能なコンテナ苗、成長等が優れた第2世代精英樹（特定母樹・エリートツリー）、国が推進している花粉症対策品種苗木の利用拡大の促進を積極的に行います。

1 ポイント

私たちの生活を守る森林は、植え付けた苗木が立派に成長し成林するまでに、数十年を要します。この間、保育作業をはじめ多くの人手と経費が投入され、厳しい自然環境のもとで森林は、病害虫や気象害の危険にさらされることになります。植え替えなどのやり直しができないことから、植え付けられる苗木の優劣は健全な森林を造成する上で大きな要因となってきます。このため、県では優良種苗の安定供給を図るため、成長の優れた第2世代精英樹（特定母樹・エリートツリー）、花粉症対策品種、抵抗性マツなどの採取源を整備し、県民のニーズに対応した種苗の供給や苗木生産技術等の普及し、活力のある林業を目指します。

2 事業内容

事業名	事業内容
育種母樹林整備事業	県採種園（新居浜市・東温市・内子町）内の採種用母樹の育成及び着花結実を促進するためのジベレリン処理等を実施
花粉症対策品種等育成推進事業	花粉症対策品種の採種園管理及びその普及啓発・育苗技術習得を実施
苗木供給体制整備事業 （※森林環境税事業）	第2世代精英樹や花粉症対策品種からなるミニチュア採種園の整備や、コンテナ苗木の生産拡大等の支援を実施
種子採取事業 （※森林環境税事業）	林業躍進プロジェクト等に基づき増産する優良種苗確保に必要な種子の採取を実施

3 令和6年度実績

(1) 実績額 25,799 千円（全体事業費 32,985 千円）

(2) 実施状況



4 事業期間 令和2年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	計
計画	育種母樹林整備事業 ジベレリン処理	220 本	220 本	220 本	220 本	220 本	1,100 本
	花粉症対策品種等育成推進事業	一式	一式	一式	一式	一式	一式
	苗木供給体制整備事業 特定母樹	スギ 300 本 ヒノキ 100 本	スギ 400 本 ヒノキ 200 本	ヒノキ 416 本	ヒノキ 300 本	ヒノキ 100 本	スギ 700 本 ヒノキ 1,200 本
	種子採取事業	一式	一式	一式	一式	一式	一式
	金額（千円）	40,015	40,128	38,654	40,070	40,070	198,937
	うち森林環境税(千円)	28,931	27,562	28,436	29,303	29,303	143,535
実績	育種母樹林整備事業 ジベレリン処理	220	220 本	220 本	220 本	220 本	1,100 本
	花粉症対策品種等育成推進事業	一式	一式	一式	一式	一式	一式
	苗木供給体制整備事業 特定母樹	スギ 198 本 ヒノキ 11 本	スギ 226 本 ヒノキ 6 本	ヒノキ 416 本	ヒノキ 156 本	スギ 272 本 ヒノキ 156 本	スギ 696 本 ヒノキ 745 本
	種子採取事業	一式	一式	一式	一式	一式	一式
	金額（千円）	36,330	32,817	37,802	39,638	32,985	179,572
	うち森林環境税(千円)	28,931	25,508	25,481	29,303	25,799	135,022
実施箇所		県内一円	県内一円	県内一円	県内一円	県内一円	

⑦ 林業躍進プロジェクト推進事業（一部森林環境税事業）

「えひめ農林水産業振興プラン2021」の目標達成に向けた「林業躍進プロジェクト(第2期)」に取り組むとともに、県民等に対し森林の理解を深める機会を創出します。

1 ポイント

令和3年3月に策定した「えひめ農林水産業振興プラン2021」及びその実行プログラムである「林業躍進プロジェクト(第2期)」の進行管理や県民との意見交換のための推進会議を開催します。
また、プロジェクトの成果の普及を図り、スマート林業等の導入、団地設定等集約化を促進するなど、現地実証や精度検証を行うとともに、県民に向けた情報発信を行います。
また、持続可能な森林経営の達成に資する「森林認証材」の販売体制を強化するとともに、動画等メディア配信等により、県民や企業に対し、森林・林業に対する理解を深める機会を創出し、森づくりへの参画を促進します。

2 事業内容

項 目	取 組 内 容
(1) 林業躍進プロジェクト(第2期)推進事業	広く県民の意見を聴取するため、各地域における推進会議を開催 (参集者：市町、林業関係団体、森林所有者、製材・加工・流通業者等)
(2) 林業躍進プロジェクト普及事業	林業躍進プロジェクトを推進するに当たり、林業普及指導員が中心となって、主伐や再造林、スマート林業の導入施策の集約化の推進など、普及啓発を図るなどの広報活動経費等
(3) 森林認証材消費販売強化対策事業	民間レベルでの認知度向上に向けた、認証材製品の開発や円滑な認証材流通・販売を促すための検討会を開催
(4) 「えひめ森林・林業」情報発信事業	えひめの森林・林業に対するイメージアップを図るため、“えひめの森林・林業”ページを運営し、幅広く情報を配信する。

3 令和6年度実績

(1) 実績額 4,645 千円（全体事業費 6,609 千円）

(2) 実施状況



林業躍進プロジェクト推進会議

4 事業期間 令和2年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	計
計画	林業躍進プロジェクト推進会議の開催	4回	4回	4回	4回	4回	20回
	森林管理(FM)面積(増加量)	—	3,700ha	3,700ha	3,700ha	3,700ha	14,800ha
	事業費	818千円	3,513千円	3,449千円	2,971千円	8,025千円	18,776千円
	うち森林環境税	428千円	2,156千円	2,156千円	1,678千円	5,897千円	12,315千円
実績	林業躍進プロジェクト推進会議の開催	4回	1回	4回	4回	4回	13回
	森林管理(FM)面積(増加量)	—	3,152ha	3,053ha	4,044ha	4,840ha	15,089回
	事業費	323千円	2,190千円	2,922千円	2,556千円	6,609千円	14,600千円
	うち森林環境税	266千円	1,260千円	1,757千円	1,458千円	4,645千円	9,386千円
実施箇所		東予地方局、中予地方局、南予地方局(本局、八幡浜支局)	八幡浜市	東予地方局、中予地方局、南予地方局(本局、八幡浜支局)	東予地方局、中予地方局、南予地方局(本局、八幡浜支局)	東予地方局、中予地方局、南予地方局(本局、八幡浜支局)	

⑧ 県産大径材生産促進事業

高齢級化・大径木化が進む人工林において、生産される大径材の活用を進めるため、林内路網と林業機械の改良、集積場所の確保や生産管理など流通設備の導入などに対して支援を行うことにより、持続的な林業経営の確立を目指します。

1 ポイント

スギ・ヒノキを中心とする人工林においては高齢級化・大径木化が進んでおり、そこから生産される大径材の更なる活用を進めるためには、山から効率的かつ安定的に生産・流通させるシステムを構築するとともに新たな需要の開拓が必要となっています。

本事業では、大径材に対応できるよう、林内路網と林業機械の改良、集積場所の確保やサプライチェーン構築のための生産管理など流通設備の導入など先行的に取り組もうとしている事業体に対して支援を行うことにより、県内への波及効果が期待できるほか、持続的な林業経営の確立を目指します。

2 事業内容

項 目	取 組 内 容
(1) 生産基盤整備支援	大径材を安全かつ効率的に生産できる作業システムを構築するため、大径材に対応可能な林内路網の拡幅や林業機械の改良に要する経費の一部を支援します。
(2) 集積・保管場所確保支援	大径材用途の多様化に対応するため、集積・保管・仕分け場所（山土場や中間土場など）の確保や整備に要する経費の一部を支援します。
(3) サプライチェーン構築支援	県産材の需要が増す中、大径材を製材工場へ安定的に供給するためのサプライチェーン構築にあたり、大径材の生産管理等の機材の導入に要する経費の一部を支援します。

3 令和6年度実績

(1) 実績額 7,946 千円

(2) 実施状況



生産基盤整備支援（久万広域森林組合）



集積・保管場所確保支援（宇摩森林組合）

4 事業期間 令和4年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R 4	R 5	R 6	計
計 画	路網及び機械の改良箇所数	4 箇所	4 箇所	4 箇所	12 箇所
	土場整備数	5 箇所	5 箇所	5 箇所	15 箇所
	サプライチェーン構築数	2 体制	2 体制	2 体制	6 体制
	事 業 費	7,993 千円	7,993 千円	7,993 千円	23,979 千円
	うち森林環境税	7,993 千円	7,993 千円	7,993 千円	23,979 千円
実 績	路網及び機械の改良箇所数	2 箇所	2 箇所	3 箇所	7 箇所
	土場整備数	3 箇所	0 箇所	1 箇所	4 箇所
	サプライチェーン構築数	2 体制	1 体制	0 体制	3 体制
	事 業 費	7,934 千円	7,956 千円	7,946 千円	23,836 千円
	うち森林環境税	7,934 千円	7,956 千円	7,946 千円	23,836 千円

⑨ 森林カーボンオフセット促進事業

県内におけるＪークレジット（以下、クレジット）販売によるカーボンオフセットを促進し、民間企業への販売機会を創出するとともに、クレジット発行が可能な森林経営者に対して供給対策を行うことで、本県森林に係る排出権取引を活性化し、森林整備の資金に繋げることで、2050年カーボンニュートラルの達成に寄与します。

1 ポイント

県内におけるクレジット販売を促進するため、クレジット発行者と県内外の民間企業とのマッチング相談会を開催するほか、県内外の企業や団体へ営業活動を行います。

また、森林由来のクレジット供給を促進するため、森林経営者向けに意向調査やセミナーを実施し、新たなクレジット制度への理解度を高め、クレジット発行への意欲向上を図ります。

2 事業内容

項 目	取 組 内 容
(1) Jークレジット販売促進	県内クレジット発行者と県内外の民間企業とのマッチング相談会を開催するほか、県内外の企業や団体へ営業活動を行う。
(2) 森林クレジット供給対策	森林経営者向けに意向調査やセミナーを実施し、新たなクレジット制度への理解度を高め、クレジット発行への意欲向上を図る。

3 令和6年度実績

(1) 実績額 1,804 千円（事業費 1,804 千円）

(2) 実施状況



Jークレジット活用セミナー



関係機関との打合せ



J-VER 社会貢献活動に対する表彰

4 事業期間 令和5年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R 5	R 6	計
計画	森林吸収系 Jークレジット販売量	70 t-CO ₂	75 t-CO ₂	145 t-CO ₂
	マッチング商談会参加者数	6 者	6 者	12 者
	セミナー参加者数	20 名	30 名	50 名
	事業費	3,081 千円	2,772 千円	5,853 千円
	うち森林環境税	3,081 千円	2,772 千円	5,853 千円
実績	県産 Jークレジット販売量	232 t-CO ₂	398 t-CO ₂	630 t-CO ₂
	マッチング商談会参加者数	7 者	— 者	7 者
	セミナー参加者数	37 名	63 名	100 名
	事業費	2,330 千円	1,804 千円	4,134 千円
	うち森林環境税	2,330 千円	1,804 千円	4,134 千円

⑩ スマート林業人材育成研修事業（一部森林環境税事業）

森林・林業分野においてもＩＣＴ等のＤＸ技術を活用して施業の効率化を図ることが期待されているため、林業事業体を対象とする研修を実施してスマート林業を実現する人材を育成します。

1 ポイント

ウッドショックなどを背景に国産材の需要が高まる一方、林業分野でも担い手の減少が進んでおり、ＩＣＴ等のＤＸ技術を活用した業務の効率化を図ることが不可欠となっています。

本事業では、林業研究センターが林業事業体等の従事者を対象に、林業に係るＤＸの基礎から、携帯型森林情報システム等の活用、ドローンを使用した効率化技術等を体系的に修得できる実習を行うことで、ＤＸ技術を林業の現場でフル活用できるスマート林業人材の育成に取り組むこととしています。

スマート林業においては、施業計画から造林・伐採・搬出、流通などに至る工程において、ＤＸ技術をフル活用することを目指しており、スマート林業人材を育成することで、これら各段階における労働負荷の軽減、作業の安全確保、生産性向上を推進することとしています。

2 事業内容

(1) スマート林業技術研修

区分	項目	目的	日程	定員、回数	受講対象
ＤＸ基礎技術研修		スマート林業基礎的知識を有する人材を育成するため、ＩＣＴ／ＩＯＴ、ドローン、ＡＩ、森林クラウド、サプライチェーンマネジメント等の最新技術の可能性と利用方法に関する幅広い知識の習得	１日間 (室内のみ)	人数：50名、 回数：１回 実績：64名	県・市町職員、森林組合、林業事業体の職員
ＤＸ実践技術研修	①携帯型森林情報システム（フォレストトラック）	現在における位置情報と森林情報の迅速に把握することが可能となる当該システムの利用方法の習得	１日間 (現地１日、室内１日)	人数：４名 回数：３回 実績：15名	森林組合、林業事業体の職員
	②地理情報システム（GIS）	森林の位置情報に関するデータを総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能とする当該システムの利用方法の習得	１日間 (室内のみ)	人数：４名 回数：３回 実績：15名	
	③デジタルコンパス	林地の周囲測定の迅速化、省力化	１日間 (現地：半日、室内：１日)	人数：４名 回数：３回 実績：15名	
	④衛星測位システム（GNSS）	地上での現在位置を正確に計測し、取得データによる面積測等を可能とする当該システムの利用方法を習得する。	１日間 (現地：半日、室内：半日)	人数：４名 回数：３回 実績：15名	
ＤＸ応用技術研修	⑤ドローン基本操作	ドローンに関する基礎知識と操作技術の習得	１日間 (現地のみ)	人数：４名 回数：３回 実績：15名	
	⑥ドローン空撮	ドローン空撮技術の習得	１日間 (現地のみ)	人数：４名 回数：３回 実績：15名	
	⑦ドローン解析	ドローンにより取得したデータを解析、利用するための技術の習得	１日間 (室内のみ)	人数：12名 回数：１回 実績：15名	
	⑧地上レーザースキャナー	地上レーザースキャナーによる正確かつ迅速な林内情報の取得及び利用技術の習得	１日間 (現地：半日、室内：半日)	人数：12名 回数：１回 実績：15名	
	⑨ドローン運搬	労働負荷軽減を可能とする運搬用ドローンの利用方法の習得	１日間 (現地：半日、室内：半日)	人数：12名 回数：１回 実績：15名	
	⑩ICTハーベスタ	１本の丸太から販売価格が最大となるよう自動で採材や仕分けを可能とするICTハーベスタの医療技術の習得	１日間 (現地：半日、室内：半日)	人数：12名 回数：１回 実績：15名	

森をつくる活動

3 令和6年度実績

(1) 実績額 1,715 千円（全体事業費 3,045 千円）

(2) 実施状況



D X 基礎技術研修



D X 実践技術研修



D X 応用技術研修



D X 応用技術研修

4 事業期間 令和5年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R5	R6	計
計画	研修受講者数	50人	50人	100人
	事業費	12,560千円	4,995千円	17,555千円
	うち森林環境税	2,754千円	1,996千円	4,750千円
実績	研修受講者数	46人	64人	110人
	事業費	9,915千円	3,045千円	12,960千円
	うち森林環境税	0千円	1,715千円	1,715千円
実施箇所		県内一円	県内一円	

⑪ エリートツリー活用省力化モデル事業（一部森林環境税事業）

成長の早いエリートツリーを活用し、育林の省力化と経費節減の実証や県産「スギ」エリートツリーの品種開発を行い、造林・保育作業者の労働環境の改善と定着率向上を図ります。

1 ポイント

県産材の増産と森林の若返りを図るため、林業躍進プロジェクトでは、主伐・再造林を推進してきたところですが、造林・保育作業者の数は、高齢化や労働強度などを理由に減少傾向にあります。

本事業では、在来品種に比べ、成長が早く、下刈り回数や植栽本数の削減を可能とする「エリートツリー」を活用し、育林の省力化など造林・保育作業の軽減効果を実証するとともに、現地研修会を開催し、エリートツリーの普及啓発を行い、労働環境の改善及び定着率向上を図ります。

2 事業内容

事業名	事業内容
エリートツリーモデル事業	エリートツリーを活用した労働負荷軽減効果の高い技術を実証するため、スギ・ヒノキのエリートツリーモデル林を整備
研修会の開催	エリートツリーの普及啓発を図るため、モデル事業の成果報告や林業用ドローンを使用した苗木運搬の実践など研修会を開催

3 令和6年度実績

(1) 実績額 4,665 千円（全体事業費 5,256 千円）

(2) 実施状況



モデル林整備（西予市）



研修会（久万高原町）

4 事業期間 令和5年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R5	R6	計
計	エリートツリーモデル事業	25ha	25ha	50ha
	研修会の開催	一式	一式	—
画	金額（千円）	5,600	5,600	11,200
	うち森林環境税（千円）	5,000	5,000	10,000
実	エリートツリーモデル事業	25ha	24ha	49ha
	研修会の開催	1回	1回	2回
績	金額（千円）	5,436	5,256	10,692
	うち森林環境税（千円）	4,909	4,665	9,574
実施箇所		県内一円	県内一円	

⑫ えひめ農林水産業魅力発信事業費（一部森林環境税事業）

えひめ愛顔の農林水産人を活用して、学生等の次世代を担う人物に対し、林業に関わる機会を創出することで、林業のイメージを新3K（稼げる、カッコいい、感動を楽しめる）に変えます。この取り組みによって、次世代人材の掘り起こしを図り、公益的機能を持つ森林を整備する新たな林業の担い手の確保につなげます。

1 ポイント

森林の持つ公益的機能を発揮するためには、適切な森林整備とそれに伴う木材生産の実施、搬出される木材の多面的利用を推進する必要があります。しかし、森林整備を行う林業の担い手は、減少しており、時代の要請に応える林業の担い手の確保が急務となっています。

このため、えひめ愛顔の農林水産人を活用して、県内の高校生に対する林業体験研修を実施し、林業に関わる機会を創出することで、林業のイメージを新3K（稼げる、カッコいい、感動を楽しめる）に変える契機となり、次世代人材の掘り起こしを図り、新たな担い手の確保につなげます。

2 事業内容

林業への就業意欲向上を目的として、えひめ愛顔の農林水産人を活用して、県内高校生等に対して出前授業（林業作業の基礎的体験研修）を実施する。林業の魅力を林業従事者目線でPRすることで、林業に対する理解の促進を図る。

対象校	学年・人数	研修概要	実施時期	講師 (えひめ愛顔の農林水産人)
西条農業高等学校	環境工学科 2年生 11名	チェーンソーの仕組み、分解、組み立てについて、林業の話	R6.6	平川 絢也 (西条市)
	環境工学科 2年生 13名	伐木実習、林業機械体験	R7.2	宇佐美 克弥 (西条市)
今治南高等学校	園芸クリエイト科 2年生 28名	搬出間伐現場の視察、高性能林業機械・チェーンソー操作体験	R6.11	井門 孝三郎 (今治市)
三崎高等学校	普通科 2年生 57名	高性能林業機械操作体験、チェーンソー体験、トローン体験	R6.10	松本 慎一郎 (西予市)
野村高等学校	畜産課 1年生 18名	森林調査、高性能林業機械・チェーンソー操作体験	R6.11	松本 慎一郎 (西予市)
北宇和高校	生産食品課 2年生 24名	林業の仕事について、チェーンソー体験、高性能林業機械	R6.10	山内 翔平 (鬼北町)

3 令和6年度実績

(1) 実績額 873 千円 (全体事業費 2,147 千円)

(2) 実施状況



チェーンソー操作体験



チェーンソー操作体験



高性能林業機械（グラップル）操作体験



森林・林業の仕事について説明

4 事業期間 令和5年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R5	R6	計
計画	林業年間新規就業者数 (森林環境税分)	60人	60人	120人
	事業費	15,988千円	13,115千円	29,103千円
	うち森林環境税	1,316千円	1,318千円	2,634千円
実績	林業年間新規就業者数 (森林環境税分)	65人	45人	110人
	事業費	13,954千円	2,147千円	16,101千円
	うち森林環境税	986千円	874千円	1,860千円
実施箇所		県下一円	県下一円	県下一円

⑬ 新規林業就業者育成事業費

林業への新規就業者を確保するため、林業事業体と就業希望者とのマッチングを促進する就業相談会を開催します。

1 ポイント

森林の持つ公益的機能を発揮するためには、適切な森林整備とそれに伴う木材生産の実施、搬出される木材の多面的利用を推進する必要があります。しかし、森林整備を行う林業の担い手は、減少しており、時代の要請に応える林業の担い手の確保が急務となっています。

このため、林業労働力確保支援センターを中心として、県内の林業事業体と就業希望者とのマッチングを促進する就業相談会を開催し、幅広く林業の担い手を確保します。

2 事業内容

林業の新規就業者を確保するため、林業労働力確保支援センターが中心となり、就業相談会「森林の仕事ガイダンス」を年2回開催し、就業希望者が広く林業に関する情報（林業の仕事の特色や作業内容等）を収集する機会や就業に向けて不安に思っていることに対して相談できる機会を創出します。

3 令和6年度実績

(1) 実績額 2,745 千円（全体事業費 2,745 千円）

(2) 実施状況



松山市会場



松山市会場



西条市会場



西条市会場

4 事業期間

令和6年度

5 全体計画

事業内容		R6	計
計画	新規林業就業者数	60人	60人
	事業費	2,775千円	2,775千円
	うち森林環境税	2,775千円	2,775千円
実績	新規林業就業者数	45人	45人
	事業費	2,745千円	2,745千円
	うち森林環境税	2,745千円	2,745千円
実施箇所		県内一円	

令和 6 年度 県指定事業

木をつかう活動 関係事業

① 木質バイオマス利用促進事業

木質バイオマスの利用拡大を促進するとともに、林地残材を資源化する体制の構築を支援し、中山間地域を支える林業の振興、木材の利用拡大を図ります。

1 ポイント

本事業では、森林整備により発生した林地残材等の木質バイオマス利用を進めるため、木質バイオマスの搬出に係る経費の支援を行い、製紙用チップや木質ペレット等の原料として安定的に利用する事業を促進するとともに、未利用材の生産流通システムの構築・検証を支援します。

2 事業内容

(1) 木質バイオマス利用促進事業

①木質バイオマス有効活用事業

製材の用途に不向きな低質材や、林内に放置されている林地残材を、製紙用原料、木質ペレット等として利用するための支援を行い、林業の振興と木質バイオマスの利用促進による二酸化炭素貯蔵効果の発揮に貢献します。

②林地残材資源化促進事業

林内に放置されている不定形な林地残材を木質バイオマス発電用途に向けて供給する取組を支援します。

(2) 木質バイオマスエネルギー利用普及促進事業

県内における中小木材産業の木質バイオマス利用を促進するため、エネルギー利用の実態調査を行うとともに、施設導入計画等の作成を支援し、エネルギー効率の向上を図ります。

3 令和6年度実績

(1) 実績額 17,900 千円

(2) 実施状況

○木質バイオマス有効活用事業[2,074 千円]

製材の用途に不向きな低質材、林内に放置されている林地残材の製紙用原料利用、木質ペレット等の利用を進めるため、木質バイオマス搬出経費に対し支援を行いました。

事業内容	補助対象材積 (m ³)
低質材の有効活用に対する補助 (3 社)	4,148

○林地残材資源化促進事業[14,534 千円]

林内に放置されている林地残材をバイオマス発電に用いるため、林地残材の搬出経費に対し支援を行いました。

事業内容	補助対象材積 (t)
林地残材の資源化に対する補助 (2 社)	26,236

○木質バイオマスエネルギー利用普及促進事業[1,292 千円]

県内における中小木材産業の木質バイオマス利用を促進するため、エネルギー利用実態調査等を行いました。

木をつかう活動

(3) 事業イメージ



5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	計
計画	低質材の有効利用量	6,000m ³	6,000m ³	6,000m ³	6,000m ³	6,000m ³	30,000m ³
	林地残材等の資源化量	17,000t	17,000t	20,000 t	24,000 t	24,000 t	102,000 t
	事業費	21,230 千円	21,230 千円	21,230 千円	24,730 千円	24,730 千円	113,150千円
	うち森林環境税	21,230 千円	21,230 千円	21,230 千円	24,730 千円	24,730 千円	113,150千円
実績	低質材の有効利用量	4,900m ³	6,000m ³	6,000m ³	4,360m ³	4,148m ³	25,408m ³
	林地残材等の資源化量	31,833t	29,799t	30,405t	36,822t	26,236t	155,095t
	事業費	21,103千円	20,580千円	20,222千円	23,898千円	17,900 千円	103,703 千円
	うち森林環境税	21,103千円	20,580千円	20,222千円	23,898千円	17,900千円	103,703千円
実施箇所		県内	県内	県内	県内	県内	

② C L T 等建築物建設促進事業

地域材を利用した公共施設の木造化・木質化や、本県が全国に先駆けて普及を図っているC L T (直交集成板)の利用を支援し、県産材の更なる利用促進を図り、脱炭素社会の実現を目指します。

1 ポイント

県内で製造されるC L T等県産材を活用し、民間のC L T建築物への建設・設計支援や設計技術者等の育成、一般県民への普及・PRを推進します。

2 事業内容

(1) C L T建築物建設促進事業

① C L T建築物支援事業（事業主体：民間事業者）

C L Tの需要拡大のため、民間の商業施設をはじめとする非住宅分野における建設・設計に対し支援を行い、C L T建築物の建設を促進させることで、C L Tの需要拡大を図ります。

② C L T建築物普及促進事業（事業主体：県（委託先：愛媛県C L T普及協議会））

設計士、施工業者及び加工業者等の実務者を対象に実務的な体験型セミナーを開催し、C L Tに関する実務者の育成を図るほか、一般消費者等への普及PRにより、C L T建築物の建設を促進します。

③ C L T普及促進情報整備事業（事業主体：県）

既存のC L T建築物における住環境評価を検証し、結果を販売促進活動に活用することで、C L T建築物の建設促進を図ります。

④ 普及促進事業（事業主体：県）

（一社）日本C L T協会等が実施する研修会やセミナー等の各種活動に参加するほか、普及効果の高いC L T建築物の建設事例や各種工法の情報収集を実施し、県内でのC L T利用を普及・促進します。

(2) 木材利用推進事業

① 県関連施設整備事業（事業主体：市町）

市町が行う県関連施設の木造化に対する経費を補助します。

② 公共的施設等木材利用促進支援事業（事業主体：民間事業者）

公共的な役割を果たす民間施設を対象に、建築物の木造化等に対する経費を補助します。

③ 公共的施設木製家具等普及促進支援事業（委託先：（一社）愛媛県木材協会）

幅広く利用者への普及効果が見込まれる民間施設に対する木製家具等の導入を支援します。

3 令和6年度実績

(1) 実績額 68,602 千円

(2) 実施状況

○C L T建築物建設促進事業

①C L T建築物支援事業

C L Tの建設を促進させるため、民間事業者が建設するシンボリックなC L T建築物の設計・建設に対する支援を行いました。（設計支援5件、建設支援4件）

②C L T建築物普及促進事業

市町や設計実務者等を対象とした研修会及び体験型セミナーを実施し、C L T建築物の建設促進を図りました。

③C L T普及促進情報整備事業

C L T建築物における住環境性能の環境評価を検証し、販路開拓のツールとして活用を図りました。

④普及促進事業

C L T加工施設の導入や建設に向けて先進事例を調査するとともに、各種イベント等において、C L Tの利点や活用事例などを紹介し、普及啓発に努めました。



C L T建築物支援事業（ヒカリ歯科・矯正歯科）



普及促進事業（体験型セミナーの開催）

木をつかう活動

○木材利用推進事業

①県関連施設整備事業

事業内容	事業主体	施設名	施設概要	木材使用量	補助金額
公共施設内装木質化事業	砥部町	砥部町教育寮トベリエ	鉄骨造 2 階建て	5.11 m ³	5,000 千円

②公共的施設木材利用促進事業

四国旅客鉄道（株）、日本マクドナルド（株）、（株）伊予銀行の施設木造化等に対し支援を実施しました。

③公共的施設木製家具等普及促進事業

木材の素晴らしさを伝えるため、公共的施設に県産材で製作したベンチやテーブルなど木製家具の設置支援を行いました。



公共的施設木材利用促進事業
(JR松山駅)



公共的施設木製家具等普及促進支援事業
(愛媛銀行)

4 事業期間 令和2年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	計
計画	C L T 建築物数	5施設	5施設	5施設	5施設	5施設	25施設
	セミナー回数	5回	2回	3回	3回	3回	16回
	公共施設数	5施設	7施設	5施設	5施設	5施設	27施設
	事業費	67,088千円	92,134千円	71,348千円	58,376千円	77,963千円	366,909千円
	うち森林環境税	67,088千円	92,134千円	71,348千円	58,376千円	77,963千円	366,909千円
実績	C L T 建築物数	4施設	4施設	3施設	6施設	4施設	21施設
	セミナー回数	2回	2回	3回	3回	3回	13回
	公共施設等数	4施設	7施設	3施設	2施設	9施設	25施設
	事業費	57,524 千円	84,627 千円	57,480 千円	56,958 千円	68,602 千円	325,191 千円
	うち森林環境税	57,524 千円	84,627 千円	57,480 千円	56,958 千円	68,602 千円	325,191 千円
実施箇所		○C L T 建築物建設促進事業 店舗 1 施設 事務所 2 施設 加工施設 1 施設 ○木造公共施設整備事業 事務所 1 施設 認定こども園 1 施設 ○小規模木造施設整備事業 公園施設 1 施設 学校施設 1 施設	○C L T 建築物建設促進事業 研修施設 1 施設 共同住宅 1 施設 展示施設 1 施設 加工施設 1 施設 ○木造公共施設整備事業 児童館 1 施設 学校施設 2 施設 公営住宅 1 施設 保育所 1 施設 ○小規模木造施設整備事業 公園施設 1 施設 倉庫 1 施設	○C L T 建築物建設促進事業 木質バイオマス発電施設 1 施設 加工施設 1 施設 保養施設 1 施設 ○木造公共施設整備事業 公民館 2 施設 ○小規模木造施設整備事業 公園施設 1 施設	○C L T 建築物建設促進事業 事務所 5 施設 協同住宅 1 施設 ○木造公共施設整備事業 学生寮 1 施設 ○公共的施設木材利用促進事業 空港 1 施設	○C L T 建築物建設促進事業 事務所 2 施設 倉庫 1 施設 医療機関 1 施設 ○公共施設内装木質化事業 学生寮 1 施設 ○公共的施設木材利用促進事業 駅舎 1 施設 銀行 1 施設 店舗 1 施設 ○公共的施設木製家具等普及促進事業 銀行 3 施設 団体 1 施設 交流施設 1 施設	

③ 木の香る公園施設整備事業

利用者に優しい木材を使用した公園施設の整備を進めていきます。

1 ポイント

「木をつかう」事業の一環として、県管理の都市公園において、休憩所、ベンチや分煙パーテーションなどの新たな施設を木製品で整備することにより、利用者が優しく暖かみを感じることができる公園の整備を進めるとともに、景観的にも周囲の樹木と調和した緑豊かな安らぎ空間を提供するものである。

※県管理の都市公園
県営総合運動公園（とべ動物園を含む）、道後公園、南予レクリエーション都市公園

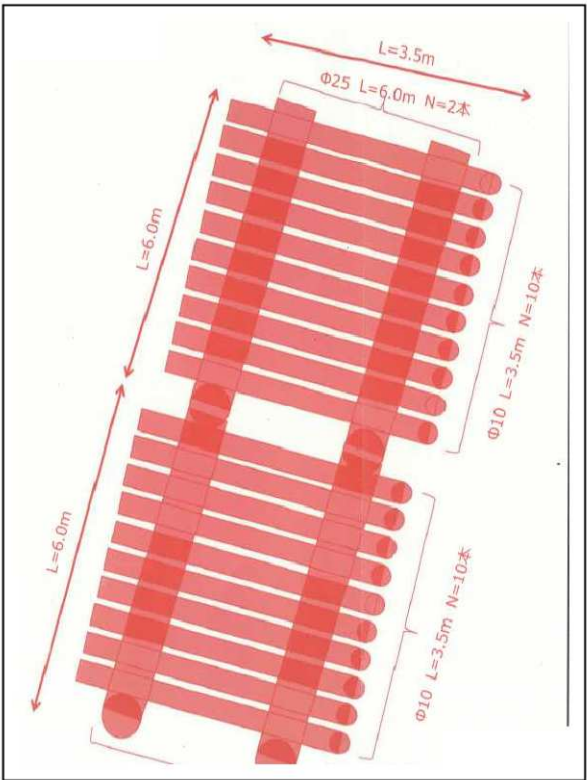
2 事業内容

- 事業箇所 県営総合運動公園（とべ動物園）
（伊予郡砥部町上原町 240 番地）
- 施設概要 藤棚 1 式
- 整備効果 とべ動物園に木製の藤棚を設置することは、公園利用者にうるおいとやすらぎの空間を提供するとともに、周囲樹木等と調和した景観の向上が期待できる。
また、さまざまな人々が集い、ふれあいの場となる都市公園に間伐材を利用した設を設置することで、木材に対する理解や関心を深めることになり、木材の利用促進にも寄与する。

3 令和6年度実績

- (1) 実績額 2,000 千円
(2) 実施状況

公園名・地区名	事業主体	事業内容	事業費	備考
とべ動物園	愛媛県	藤棚	2,000 千円	
計			2,000 千円	



木をつかう活動

4 事業期間 令和2年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	計
計 画	ふれあう人数	71,300人	36,800人	72,400人	36,800人	110,000人	327,300人
	木材使用量 (m3)	0.05	7	0.3	2	1.1	10.5
	事業費	2,500 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	10,500千円
	うち森林環境税	2,500 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	10,500千円
実 績	ふれあう人数	32,400人	21,500人	50,400	31,000人	82,700人	218,000人
	木材使用量 (m3)	0.05	7	0.21	1.8	1.0	10.1
	事業費	2,500 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	10,500千円
	うち森林環境税	2,500 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	10,500千円
実施箇所		県営総合運動公園 (分煙バーション)	南レク第1号公園 (バーゴラ)	県営総合運動公園 (分煙バーション)	南レク第1号公園 (ウッドデッキ)	とべ動物園 (藤棚)	

④ えひめ材住宅普及啓発事業

県産材や木造住宅の良さを普及啓発する相談窓口の開設・運営や県産材製品を利用する住宅等の新築やリフォーム、工務店等が実施する県産材の普及PR活動を支援し、県産材の需要拡大を図ります。

1 ポイント

木材や木造住宅の良さを普及啓発する相談窓口の開設・運営や良質な県産材製品を利用する住宅等の新築やリフォーム、工務店等が実施する県産材の普及PR活動を支援するとともに、住宅等における県産材の需要拡大を図り、木材利用による持続的な森林整備を推進します。

2 事業内容

(1) 木と暮らしの相談窓口開設支援事業

木造住宅等に関する相談窓口を開設し、県産材や木造住宅の良さを普及啓発する活動を支援します。

- ①相談窓口の設置（常設） ②研修会等の開催（設計・施工者向け） ③出前木材利用相談窓口
- ④見学会の開催（消費者向け） ⑤住宅関係の情報発信（イベント出展、HP等） ⑥木をつかう教育等の促進

(2) えひめ材の家づくり促進支援事業

木造住宅を建設する施主に対して県産柱材を無償提供し、県産材の利用拡大を促進します。

- 提供柱材 1棟当たり64本以内：（県産材）147千円/件
（県産森林認証材）179千円/件

(3) 住宅等リフォーム木材利用促進事業

個人住宅や店舗等のリフォームを行う施主に対して、県産材製品の利用を支援します。

- 支援内容 住宅等1件当たり100千円（下限）～140千円（上限）

(4) 外構施設木材利用促進事業

個人住宅や店舗等に木製外構施設を設置する施主に対して、県産材製品の利用を支援します。

- 支援内容 住宅等1件当たり100千円（下限）～140千円（上限）

3 令和6年度実績

(1) 実績額 48,152千円

(2) 実施状況

○木と暮らしの相談窓口の開設

相談受付時間 9:00～17:00（休館日：日、祝祭日）

木造住宅に関する専門相談（695件）

○えひめ材の家づくり促進支援事業

木造住宅を建設する施主に対して、県産柱材（64本/棟）を無償提供（205棟）

○住宅等リフォーム木材利用促進事業

個人住宅や店舗等のリフォームを行う施主に対して、県産材製品の利用を支援（54棟）

○外構施設木材利用促進事業

個人住宅や店舗等に木製外構施設を設置する施主に対して、県産材製品の利用を支援（17棟）



えひめ材の家づくり促進支援事業



えひめ材の家づくり促進支援事業



住宅等リフォーム木材利用促進事業



外構施設木材利用促進事業

4 事業期間 令和2年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	計
計 画	相談窓口相談件数	600件	600件	600件	600件	600件	3,000件
	柱材提供件数	300件	300件	300件	300件	300件	1,500件
	住宅等リフォーム木材利用件数	100件	85件	85件	85件	85件	440件
	外構施設木材利用件数	20件	20件	20件	20件	20件	100件
	県産材普及PR実施件数	-	5件	5件	-	-	10件
	事業費	72,386千円	71,332千円	71,332千円	70,373千円	70,373千円	355,796千円
	うち森林環境税	72,386千円	71,332千円	71,332千円	70,373千円	70,373千円	355,796千円
実 績	相談窓口相談件数	900件	727件	755件	627件	695件	3,704件
	柱材提供件数	318件	350件	345件	274件	205件	1,492件
	住宅等リフォーム木材利用件数	91件	52件	56件	60件	54件	313件
	外構施設木材利用件数	34件	25件	22件	21件	17件	119件
	県産材普及PR実施件数	-	4件	2件	-	1件	6件
	事業費	72,206千円	70,943千円	70,646千円	59,360千円	48,152千円	321,307千円
	うち森林環境税	72,206千円	70,943千円	70,646千円	59,360千円	48,152千円	321,307千円
実施箇所		県内	県内	県内	県内	県内	

⑤ 愛媛県産材製品市場開拓促進事業

品質管理、多様な製品供給、安定供給といった信頼性のある県産材の販売体制整備や大消費地での市場開拓に対して支援するとともに、木材の新たな利用用途開発を支援することで、林業経営の安定と森林整備を推進します。

1 ポイント

愛媛県産材製品市場開拓協議会が行う3大都市圏等の大消費地における愛媛県産材やC L Tの販路拡大を支援するとともに、有力な木材需用者に対する知事トップセールスやマッチング商談会を実施し、県産材の需要拡大を促進します。

2 事業内容

- (1) 販売体制整備事業【事業主体：愛媛県産材製品市場開拓協議会】
 - 3大都市圏等における大手商社・住宅メーカー、設計事務所等に対するセールス等の実施
 - 県産材製品の販売の体制整備
- (2) 愛媛県産材販売促進事業【事業主体：愛媛県(一部委託(愛媛県産材製品市場開拓協議会))】
 - 首都圏の大手商社、住宅メーカー等を対象にマッチング商談会を実施するとともに、展示会等への出展により、効率的に商談機会を創出するとともに、有力木材需用者への知事トップセールスを実施するなど、県産材製品の販路開拓を実施します。
- (3) 新たな県産材利用促進事業【事業主体：民間事業者等】
 - 県産材を使用した新商品や利用方法の開発に取り組もうとする民間企業への支援
 - 新たな県産材の利用方法等に関する説明会を実施

3 令和6年度実績

- (1) 実績額 13,566 千円
- (2) 実施状況
 - 販売体制整備事業
大手商社・プレカット工事等に対する営業活動を支援し、新たな販路拡大を行いました。
 - 愛媛県産材販売促進事業
愛媛県産材のPRのため、首都圏等大消費地で開催される展示会に出展しました。
 - ・非住宅 木造建築フェア 2024(R6. 5. 30～31) (東京ビックサイト)
 - ・WOOD コレクション 2024Plus (R6. 12. 19～20) (東京ビックサイト)県内外において県産材マッチング商談会を実施しました。
 - ・木材関係者を招待して商談会を実施 (R6. 11. 20) (愛知県名古屋市)
 - 新たな県産材利用促進事業
 - ・民間企業等のアイデアを活かし、製材製品以外の県産材の利用商品や利用方法の開発に対し、以下のとおり支援を行いました。(4件)

事業主体	実施内容
株式会社モノック工業	県産材を利用した防災用品収納BOXの開発
愛媛県森林組合連合会	県産材(クスギ)を利用した木製家具の開発
Little Branch	県産材を利用したスツールやサイドテーブルの開発
合同会社木生活	県産のヒノキを活用した「ヒノキ風呂」の開発
計	4件



非住宅 木造建築フェア 2024 での県産材 P R (R6. 5. 30～31)



WOOD コレクション 2024Plus (R6. 12. 19～20)



名古屋市内の木材市場での県産材展示・販売会 (R6. 11. 20)

4 事業期間 令和2年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	計
計画	県産材マッチング商談会の実施	3回	3回	3回	3回	3回	15回
	建材関係展示会への出展	2回	2回	2回	2回	2回	10回
	新たな県産材利用件数	5件	5件	4件	4件	4件	22件
	事業費	14,800千円	14,690千円	13,710千円	13,710千円	13,710千円	70,620千円
	うち森林環境税	14,800千円	14,690千円	13,710千円	13,710千円	13,710千円	70,620千円
実績	県産材マッチング商談会の実施	2回	4回	4回	4回	4回	18回
	建材関係展示会への出展	1回	3回	5回	4回	3回	16回
	新たな県産材利用件数	6件	6件	6件	4件	4件	26件
	事業費	13,784千円	14,336千円	13,534千円	13,429千円	13,566千円	68,649千円
	うち森林環境税	13,784千円	14,336千円	13,534千円	13,429千円	13,566千円	68,649千円

⑥ 特用林産物生産販売促進事業（一部森林環境税事業）

特用林産物における生産者の確保及び収量の安定化や生産基盤の強化に加えて、しいたけ原木供給支援、消費宣伝活動、新たな販路開拓やしいたけ生産による林福連携の推進等により、価格向上と産地化を目指すとともに、地域の資源を活用した農山村地域の活性化を図ります。

1 ポイント

乾しいたけや乾たけのこ等の特用林産物は、本県の林業産出額の5割を占めるなど、林産物とともに地域経済の活性化や雇用の確保に大きな役割を占めているものの、生産者の減少や気候変動による豊凶等の影響もあり、生産量が思うように伸びていない状況にあります。

そこで、生産者の確保及び収量の安定化や生産基盤の強化に加えて、しいたけ原木供給支援、新たな販路の開拓、しいたけ生産による林福連携の推進等により、価格向上と産地化を目指すとともに、地域の資源を活用した農山村地域の活性化を図ります。

2 事業内容

事業名	事業内容
(1) 特用林産物生産促進支援事業	原木の拡大生産分及び新品種を活用した原木導入経費、生産・加工施設整備、しいたけ原木供給の支援、販売促進や営業活動、料理コンテストの開催及びしいたけ生産による林福連携の推進を行う。
(2) 特用林産物生産基盤整備事業	乾しいたけや乾たけのこ等特用林産物の産地を維持するため、関係団体と連携を図り、乾たけのこ生産、増産に取り組もうとする森林組合等に対し、生産量の確保・増産を支援するため、作業道開設及び生産・加工に係る施設整備経費に対して助成を行う。
(3) 特用林産物販売・消費拡大支援事業	特用林産物の認知度向上と消費拡大を図るため、県内の飲食店に対する営業活動やコラボ商品の開発促進、採用されたメニューや店舗について、情報誌やメディアを活用し県民に広く周知する。

3 令和6年度実績

(1) 実績額 18,616 千円（全体事業費 19,196 千円）

(2) 実施状況



料理コンテスト



林福連携の取り組み



乾しいたけ料理の提供による消費拡大支援

4 事業期間

令和2年度 ～ 令和6年度

木をつかう活動

5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	計
計画	ふれあう人数	200人	200人	200人	200人	200人	1,000人
	木材使用量	3,965m ³	3,965m ³	3,965m ³	3,965m ³	3,965m ³	19,825m ³
	乾たけのこ生産面積	362ha	372ha	382ha	392ha	402ha	402ha
	事業費	25,010 千円	24,463 千円	19,825 千円	19,625 千円	20,648 千円	109,571 千円
	うち森林環境税	24,611 千円	23,631 千円	19,131 千円	18,928 千円	19,951 千円	106,252 千円
実績	ふれあう人数	121人	103人	171人	176人	216人	787人
	木材使用量	3,322m ³	3,113m ³	2,400m ³	2,061m ³	3,939m ³	14,835m ³
	乾たけのこ生産面積	363ha	405ha	429ha	344ha	355ha	1,896ha
	事業費	24,463 千円	22,250 千円	19,056 千円	15,257 千円	19,196 千円	100,222 千円
	うち森林環境税	23,682 千円	21,599 千円	18,478 千円	14,627 千円	18,616 千円	97,002 千円
実施箇所		県下全域	県下全域	県下全域	県下全域	県下全域	

⑦ 南予家畜保健衛生所整備事業（一部森林環境税事業）

新たに整備する南予家畜保健衛生所棟の玄関フロアや研修室の内装等を、県産木材を使って木質化します。

1 ポイント

「木をつかう」活動の一環として、西予市宇和町へ新設移転する南予家畜保健衛生所において、県民が利用する機会が多い、玄関フロアや研修室の内装等を木質化することで、木材利用の推進をPRする。

2 事業内容

- 事業箇所 南予家畜保健衛生所（西予市宇和町）
- 施設概要 南予家畜保健衛生所棟（RC造・平屋建て/延床面積 650.66m²/事務室、研修室、検査室）
解剖・焼却棟（S造・平屋建て/延床面積 241.00m²）
車両消毒設備棟（S造・平屋建て/延床面積 25.00m²）
防疫資材備蓄倉庫（S造・平屋建て/延床面積 239.25m²）
車庫（S造・平屋建て/延床面積 72.00m²）、ポンプ室（RC/延床面積 3.00m²）
- 整備効果 南予家畜保健衛生所棟の玄関フロアや研修室の内装等の木質化は、県民が施設を訪れた際に木材への魅力や関心を引き起こさせ、木材の利用促進に寄与する。

3 令和6年度実績

- （1）実績額 2,081 千円（全体事業費 579,154 千円）
- （2）実施状況

玄関フロア



研修室



4 事業期間

令和6年度

5 全体計画

事業内容		R6	計
計画	木材使用量	11.5m ³	11.5m ³
	事業費	665,698 千円	665,698 千円
	うち森林環境税	2,081 千円	2,081 千円
実績	木材使用量	11.5m ³	11.5m ³
	事業費	579,154 千円	579,154 千円
	うち森林環境税	2,081 千円	2,081 千円
実施箇所		南予家畜保健衛生所棟の玄関フロア 内装腰壁など	

⑧ 愛媛県立北宇和高等学校馬術部厩舎改築事業（高等学校修繕費）

県内唯一馬術部を有する北宇和高校の活動環境を一新し、同校の全国募集の魅力向上につなげるほか地域の交流の場として馬術部厩舎を整備します。

1 ポイント

「木をつかう」事業の一環として、地域の幼稚園や小学校が遠足で訪れ馬とふれあう地域の交流の場にもなっている北宇和高校馬術部厩舎を、木造建築で改築することで木の魅力を学べる場として木材利用の推進を広くPRする。

2 事業内容

- (1) 事業個所 愛媛県立北宇和高等学校
- (2) 施設概要 馬術部厩舎（延床 230 m²程度）
- (3) 整備内容 既存厩舎及び周辺施設の解体撤去
厩舎の設計・新築
馬場の拡張及び柵更新
- (4) 整備効果 県内唯一の北宇和高校馬術部は、地域にも開放され、同校の特色の一つとなっていることから、町と連携して馬術部厩舎を木造化することで同校の全国からの募集の目玉として、魅力向上につなげ生徒数増加を図る。

3 令和6年度実績

- (1) 実績額 8,000 千円（全体事業費 53,240 千円）
- (2) 実施状況



4 事業期間 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R6	計
計画	木材使用量	35 m ³	35 m ³
	事業費	35,000 千円	35,000 千円
	うち森林環境税	8,000 千円	8,000 千円
実績	木材使用量	35 m ³	35 m ³
	事業費	53,240 千円	53,240 千円
	うち森林環境税	8,000 千円	8,000 千円
実施箇所		北宇和高校	

森とくらす活動 関係事業

① 県民と森との交流促進事業

森林ボランティア活動をはじめとする県民の森林づくりに係る活動の支援や、フィールドとなる森林の提供などにより森林との交流を進めます。

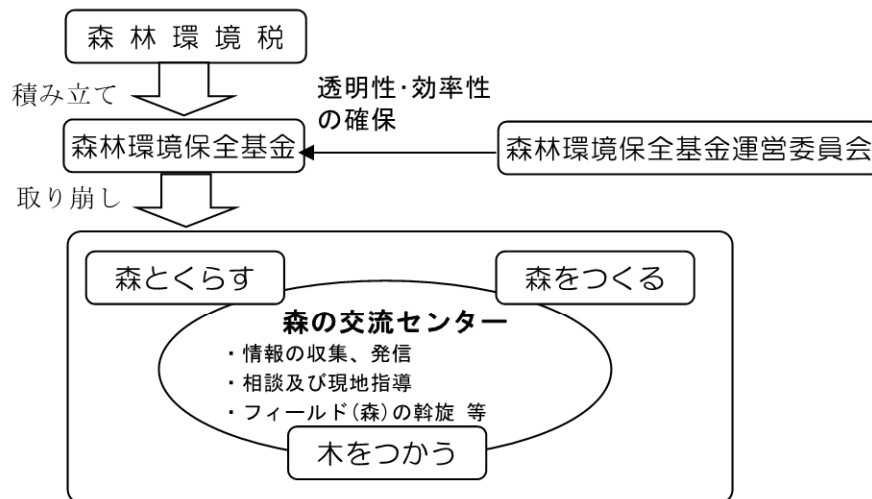
1 ポイント

森林の利活用促進を図るため、愛媛県森の交流センターを拠点として、様々な情報提供をはじめ、個別の相談や現地での指導といった支援を積極的に行い、森林を利活用する活動への参加に向けた、県民の関心を喚起する。また、森林ボランティア団体等が活用できる器具の整備や、県民が森林づくり活動を行えるようフィールドを提供する。

また、森林環境税を財源とした事業について、適切な実施と透明性の確保を図るため、愛媛県森林環境保全基金運営委員会を開催し、事業の調査・審議を行うとともに、森林環境税と同税活用事業の成果等を広く周知する。

2 事業内容

(1) 事業イメージ



(2) 事業内容

① 森とのふれあい活動フィールド運営整備事業	○愛媛県森の交流センターの運営（東温市田窪、平成 17 年度設置） ・森林の利活用に関する情報の収集と発信、フィールド（森）の斡旋 等 ・森林ボランティア活動等に関する相談及び現地指導 ・森林環境税活用事業の実施支援 ○県民参加のフィールド整備提供事業 ・県民が身近に森林を利活用できるよう、拠点フィールドの環境を整備するとともに、身近なフィールドの斡旋を行った。 ○企業の森づくり促進支援事業 ・企業による CSR 活動としての森林づくり活動を支援するために、フィールド整備や「愛媛県企業の森づくり CO2 吸収量認証制度」の運営を行った。
② 森林人育成事業	・各地域で「少年自然愛護活動事業」を実施し、要望に応じ森林・林業教室を開催するほか、技術的な支援を行った。 ・森林ボランティア活動を支援するためのボランティア活動機械（チップパー機等）及び器具（ヘルメット等）を整備し貸出を行った。
③ 愛媛県森林環境保全基金運営委員会の運営	森林環境税を財源とした事業について、調査・審議を行うため、委員 10 名からなる愛媛県森林環境保全基金運営委員会を 4 回開催するとともに、森林環境税の制度内容及び実施事業について、広く県民に普及啓発するために、普及啓発冊子等を配布した。

3 令和6年度実績

(1) 実績額 17,256 千円

(2) 実施状況



少年自然愛護活動事業



普及啓発冊子（実績報告）

4 事業期間 令和2年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	計
計画	森の交流センター相談件数	2,000 件	2,000 件	2,000 件	2,000 件	2,000 件	10,000 件
	身近なフィールド設置箇所数	5箇所	5箇所	5箇所	5箇所	5箇所	25箇所
	ボランティア						
	人数	200人	200人	200人	200人	200人	1,000人
	身近なフィールド	800人	800人	800人	800人	800人	4,000人
	「えひめ山の日の集い」参加者数	2,000 人	2,000 人	2,000 人	2,000 人	一人	10,000 人
	事業費（千円）	21,663	21,663	20,200	21,738	18,550	103,814
実績	うち森林環境税	21,663	21,663	20,200	21,738	18,550	103,814
	森の交流センター相談件数	1,430件	1,390 件	1,350 件	1,310 件	1,290 件	6,770件
	身近なフィールド設置箇所数	2箇所	1箇所	0箇所	0箇所	0箇所	3箇所
	ボランティア						
	人数	55人	75人	184名	147名	89名	550名
	身近なフィールド	520人	413人	528名	586名	658名	2,705名
	「えひめ山の日の集い」参加者数	2,039人	352人	508名	668名	一人	3,567人
	事業費（千円）	15,371	16,526	17,703	19,403	17,256	86,259
	うち森林環境税	15,371	15,526	17,703	19,403	17,256	86,259

② 「森に親しむ博物館」開催事業

総合科学博物館を会場に、県産材を使用した展示ケース・パネルを備え、森林をテーマにした展示、ミュージアムツアー（展示解説）及び親子で森林に親しむ工作教室を開催します。これらの事業を通じて、森林を保全することによって維持される生物多様性や人と森林の共生の大切さについて、子供を中心とする幅広い世代の県民の森への理解を深め、森林と共生していく文化の創造や環境教育に貢献します。

1 ポイント

- (1) 県産材を使用した展示ケース、展示パネルを製作し、木目が見え温かみの感じられる展示コーナーを新設します。博物館収蔵資料を展示し森林環境の保全について学ぶ場を提供するとともに「木を循環させる（育てる、使う）」ことを紹介するため、林業の盛んな東予地方の別子山地区において、人によって育まれ再生された森林環境の過去と現在を写真パネルで紹介します。展示期間は、学校遠足が多い時期を中心に設定するなど多くの子供達のまなびの機会提供に努めます。
- (2) 開催期間中にミュージアムツアー（展示解説会）を開催し、学芸員が展示解説を実施し、来場者の森林への理解と関心を深めてもらいます。併せて、子供達に人気の高い木の葉や木の実等を材料にして楽しみながら学ぶ工作教室をGWと開館記念日に開催します。

2 事業内容

(1) 「森に親しむ博物館」

○展示期間及び観覧者数

展示期間	観覧者数(人)
令和6年9月21日(土)～11月10日(日)【42日間】	17,942

○入場料 無料

○展示構成

コーナー名	内 容
森の植物	新作した植物のレプリカ標本（ウツギ、リョウブ、クサギ）を中心に、県下に分布する貴重な植物を紹介
森のいきもの	森にすむ昆虫の標本を展示
森の再生	森林環境（別子山地区）の過去と現在を写真パネルで紹介

※展示のために、植物レプリカ標本のほか県産材を使用した展示パネルを2台・展示ケースを1台製作

(2) 関連イベント

ア ミュージアムツアーの開催

科博学芸員による展示解説及び会場周辺の自然観察を行う。

実施：令和6年9月22日（日）参加者 141 名

イ 工作イベントの開催

木の葉やドングリ等を材料にした工作イベントを年2回開催する。

タイトル	実施日	参加者数（人）
木の葉で遊ぼう	令和6年5月4日（土 祝）	82
タネで遊ぼう	令和6年11月4日（月 振休）	132

3 令和6年度実績

(1) 実績額 3,090 千円

(2) 実施状況



「森に親しむ博物館」チラシ



開催状況



「ミュージアムツアー」開催状況



「工作イベント」実施状況



植物レプリカ標本



県産材を使った展示ケース

4 事業期間 令和2年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	合計
計 画	「森に親しむ博物館」 観覧人数(人)	25,680	25,680	25,680	25,680	25,680	128,400
	「ミュージアムツアー」 参加人数(人)	120	120	120	120	120	600
	「工作イベント」 参加人数(人)	100	100	100	100	100	500
	事業費(千円)	3,434	3,090	3,090	3,090	3,090	15,794
	うち森林環境税(千円)	3,434	3,090	3,090	3,090	3,090	15,794
実 績	「森に親しむ博物館」 観覧人数(人)	13,522	13,121	16,872	17,639	17,942	79,096
	「ミュージアムツアー」 参加人数(人)	85	80	107	11	141	424
	「工作イベント」 参加人数(人)	95	105	134	332	214	880
	事業費(千円)	3,434	3,090	3,090	3,090	3,090	15,794
	うち森林環境税(千円)	3,434	3,090	3,090	3,090	3,090	15,794
実施回数		展示1回 工作1回	展示1回 工作1回	展示1回 工作2回	展示1回 工作2回	展示1回 工作2回	

※平成20年度から21年度までは「森のめぐみ 木のものがたり展」開催事業、平成22年度から令和2年度までは巡回展「森に親しむ博物館」開催事業として類似事業を実施

③ 森林病虫害獣害対策事業（一部森林環境税事業）

県木である松を守るため、重要な松林を対象とした必要最小限度の松くい虫薬剤樹幹注入を行い、松林の保全を図る。

1 ポイント

県木である松を守るため、従来から行っている薬剤樹幹注入の予防措置を実施することで、引き続き適切な防除に努めることとする。

2 事業内容

（1）松のみどりを守る活動事業（樹幹注入）

松くい虫による枯死を予防するため、松に薬剤を注入する。

市町	事業量	事業費	うち森林環境税額
今治市	323 m ³	8,121 千円	2,164 千円
計	323 m ³	8,121 千円	2,164 千円

3 令和6年度実績額

（1）実績額 2,164 千円（全体事業費 8,121 千円）

（2）実施状況



樹幹注入作業の様子

4 事業期間 令和2年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	計
計画	樹幹注入量(m3)	242	57	635	264	344	1,542
	事業費	11,858 千円	2,806 千円	15,956 千円	7,170 千円	8,659 千円	46,449 千円
	うち森林環境税	3,014 千円	751 千円	3,988 千円	1,792 千円	2,164 千円	11,709 千円
実績	樹幹注入量(m3)	225	437.73	694	287	323	1,966.73
	事業費	5,699 千円	4,973 千円	16,041 千円	7,256 千円	8,121 千円	42,090 千円
	うち森林環境税	2,130 千円	751 千円	3,988 千円	1,792 千円	2,164 千円	10,825 千円
実施箇所		樹幹注入（今治市・久万高原町） 松林保全活動（今治市）	樹幹注入（今治市・伊予市・久万高原町）	樹幹注入（今治市・伊予市）	樹幹注入（今治市）	樹幹注入（今治市）	

④ アートの森プロジェクト事業（一部森林環境税事業）

県民の文化芸術の拠点となっている県美術館で、県産材により作成した額や展示台等による展示事業や関連イベントを展開することで、優れた県産材の魅力をアピールします。

1 ポイント

新たに県産材を使用した額や展示台等を新規作成し、これらを使用して「森林」に関する芸術作品を活用した展覧会を、学校団体利用の多い本館で開催することで、県産材の魅力を作品鑑賞の機に子どもを始めとした県民に広く伝えることができます。また、展示内容と関連し、県産材を活用したイベントを会期中に開催することで、森林と美術についての理解を深める機会を提供するものです。

2 事業内容

- (1) 県産材による額や看板等の作成
- (2) 上記の額や看板等を使用したコレクション展「森のなぞなぞ美術館Ⅴ わけいってもあおいやま」の開催

時期：令和6年6月1日（土）～8月12日（月・振休）

場所：本館2階 常設展示室1・2

料金：有料（コレクション展観覧料）

観覧者数：5,708人

- (3) 上記会期中の関連イベントの実施

- 1. スペシャルワークショップ「レンチキュラーで変化する森のいきものを作ろう」

日 時：7月21日（日）14：00～15：00／場 所：本館1F多目的ルーム

講 師：西武アキラ（実験漫画家）

定 員：15名（参加者：30人）

- 2. ワークショップ「額／装する Workshop」

日 時：8月4日（日）10：00～12：00／場 所：本館1F多目的ルーム

講 師：額師風雅

定 員：10名（参加者：10人）

- 3. ワークショップ「木曜ワークショップ」

①30min 植物画観察 ②よくみるパズル ③ブラインド・デート

日 時：①7月25日（木） ②8月1日（木） ③8月8日（木）

各 10：30～11：30／場 所：本館2F常設展示室

進 行：鈴木有紀（専門学芸員）

定 員：各20名（参加者：延べ54人）

- 4. レクチャー「木の実の本へ落つ 展示はコレクションへ帰る」

日 時：6月29日（土）14：00～15：00／場 所：本館1F多目的ルーム

講 師：喜安 嶺（専門学芸員）

定 員：20名（参加者：15名）

- 5. ワークショップ 夏休みイベント「とばせ！くるくる」

日 時：8月11日（日）、12日（月・振休）

各 10：30～11：30、15：00～16：00

場 所：本館エントランスホール（参加者：延べ120人）

- 6. スペシャルトーク

日 時：7月6日（土）、8月12日（月・振休）各 14：00～15：00

場 所：本館2F常設展示室（参加者：延べ50人）

講 師：西武アキラ（実験漫画家）

3 令和6年度実績

- (1) 実施額 1,798千円（全体事業費2,686千円）

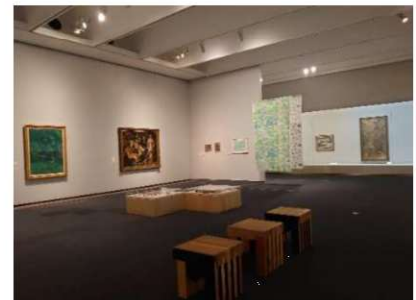
森とくらす活動

(2) 実施状況

1. 県産材で作成した額、展示台
ヒノキ額 (左)、ヒノキ台 (右)

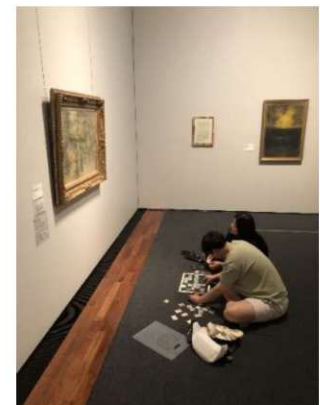


2. コレクション展「森のなぞなぞ美術館V」のチラシと展覧会の様子



3. 関連イベント実施の様子

スペシャルワークショップ (左)、スペシャルトーク (中)、木曜ワークショップ (右)
ワークショップ「額／装する Workshop」 (下)



4 事業期間

令和2年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	計
計画	ふれあう人数	11,000人	11,000人	11,000人	13,000人	15,000人	61,000人
	事業費	1,270千円	1,170千円	1,254千円	1,254千円	2,700千円	7,648千円
	うち森林環境税	1,000千円	900千円	900千円	900千円	1,800千円	5,500千円
実績	ふれあう人数	2,724人	4,234人	8,056人	4,411人	5,708人	25,133人
	事業費	1,254千円	1,162千円	1,251千円	1,248千円	2,686千円	7,601千円
	うち森林環境税	984千円	893千円	897千円	895千円	1,798千円	5,467千円
実施箇所		愛媛県美術館	愛媛県美術館	愛媛県美術館	愛媛県美術館	愛媛県美術館	

えひめ森林公園魅力発信事業（一部森林環境税事業）

えひめ森林公園の来園者数を増やし、森とのふれあいを促進するため、とべもり+（プラス）連携体験イベント等を実施し、誘客促進と第76回全国植樹祭の機運醸成を図ります。

1 ポイント

令和6年度のリニューアルや有料化によるサービス向上、第76回全国植樹祭の開催を契機に、「ホップ（再整備）」「ステップ（とべもり+への加入）」からの「ジャンプ（魅力発信）」を目指して、森とふれあう各種体験イベントを実施します。

2 事業内容

（1）とべもり+ジャンピングイベント

①とべもり+de 飛べ！森へ！	令和6年9月29日（日） 参加者：約1,200人 えひめ森林公園リニューアルイベントを開催。 ・記念セレモニー （第76回全国植樹祭「明日の森林へ贈る愛レタープロジェクト」キックオフ） ・とべもり+出張イベント ・「結のブランコ」昼夜イベント ・全国植樹祭PRイベント
②とべもり+de えひめ山の日	令和6年11月30日（土） 参加者：457人 第76回全国植樹祭関連事業「こどもの森づくりフォーラム in えひめ」サイドイベントとして、森林体験「森の“ナバ〜らんど”」を開催。
③とべもり+de みんなの森づくり	「県民参加の森づくり公募事業」において、第76回全国植樹祭記念事業「記念枠」を新設し、とべもり+4施設のいずれかにおいて活動を実施する3団体へ助成。 ※事業費は公募事業にのみ計上。

（2）森林公園体験イベント

①森林婚活イベント	令和6年12月14日（土） 参加者：20名 アウトドアクッキングやトレッキングを通じた出会いイベントを開催。
②ESDプログラム及び研修会	えひめ森林公園ESD教材を活用して、小・中学生向けプログラム2回（伊予小学校・伊予中学校）及び指導員研修会を実施した。

（3）情報発信強化事業

①デジタルを活用した戦略的広報	とべもり+共通HPやスマホアプリによる情報発信に加え、各種SNSを使用したターゲティング広告を行った。
-----------------	---

3 令和6年度実績

- （1）実績額 11,043千円（全体事業費13,260千円）
うち施設整備分：えひめ森林公園維持管理費 1,820千円

（2）実施状況



記念セレモニー



ターゲティング広告(SNS バナー)



とべもり+出張イベント



森の“ナバ〜らんど”



ESD プログラムの様子

4 事業期間 令和2年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R2	R3	R4	R5	R6	計
計画	来園者数	10万人	10万人	11万人	12万人	13万人	56万人
	Instagram フォロワー数 (累計)	—	500 人	1,100 人	1,300 人	1,500 人	1,500 人
	事業費	3,713 千円	18,065 千円	115,521 千円	125,897 千円	13,756 千円	276,952 千円
	うち森林環境税	3,713 千円	18,065 千円	115,521 千円	86,900 千円	11,539 千円	235,738 千円
実績	来園者数	6.4万人	6.0万人	7.4万人	8.7万人	10.1万人	38.6万人
	Instagram フォロワー数 (累計)	—	966 人	1,104 人	1,906 人	2,695 人	2,695 人
	事業費	2,159 千円	17,767 千円	113,914 千円	119,776 千円	13,260 千円	266,876 千円
	うち森林環境税	2,159 千円	17,767 千円	113,914 千円	85,858 千円	11,043 千円	230,741 千円
実施箇所		県内	県内	県内	県内	県内	

(※R2 えひめ森林公園魅力向上検討事業費/R3～5 えひめ森林公園整備事業費/R6 えひめ森林公園魅力発信事業費)

令和 6 年度 公募事業

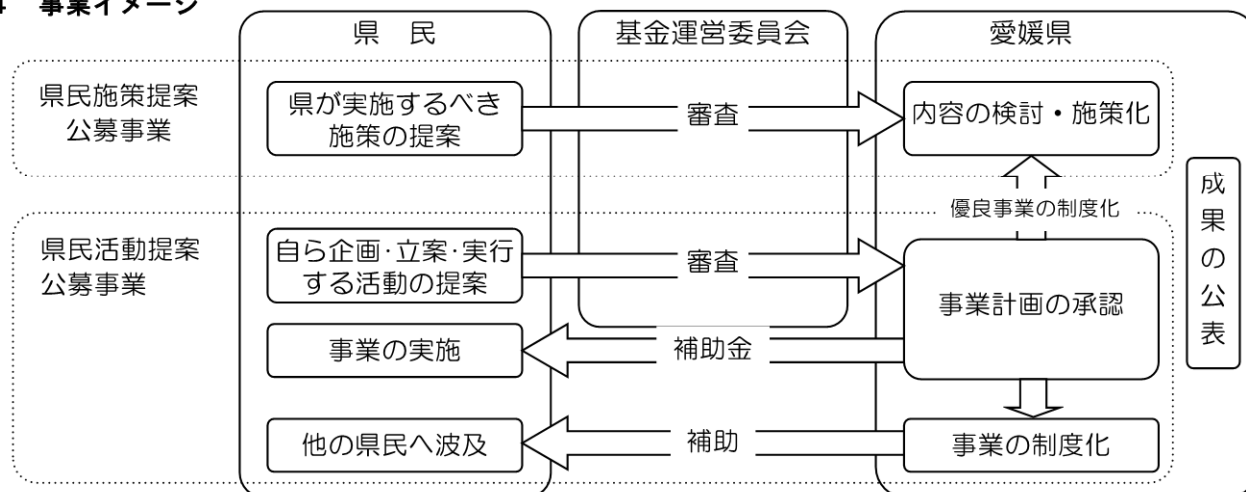
公募事業

1 ポイント

また、県民の自発的な活動を具体的に支援するため、県民自らが企画・立案・実行する活動に対し補助するほか、補助した事業については、他の県民にも波及するよう制度化や必要に応じて県として施策化を検討します。

(1) 県民施策提案公募事業	【事業概要】 森林環境税を財源として県が実施すべき施策を広く県民から募集し、審査・検討のうえ、県実施事業としてふさわしいものについて施策化を検討する。
(2) 県民活動提案公募事業	【事業概要】 森林環境税の趣旨に即し、県民が自ら企画・立案・実行する活動を広く募集し、審査・選定のうえ、適当と認めるものについては、事業実施に要する必要最小限の経費に対し、補助金を交付する。 【対象となる事業の概要】 ◆森をつくる活動：放置森林、放置竹林、里山林等の整備活動等 ◆木をつかう活動：木材利用推進活動、木工広場の開催等 ◆森とくらす活動：森林環境教育、森林保全活動、森林ボランティア活動等 【補助率】 事業費 500 千円以下の部分 10/10 以内 事業費 500 千円を超える部分 1/2 以内 ※ただし 1 件あたり補助額 1,250 千円を上限とする。

事業の選定は、愛媛県森林環境保全基金運営委員会及び県による審査・検討のうえ、決定します。



公募事業

5 令和6年度実績

(1) 県民施策定案

施策提案 0 件

(2) 県民活動提案

応募件数 48 件 (補助要望金額 14,293 千円)

採択件数 48 件 (補助金額 14,016 千円)

実施件数 48 件 (補助金額 13,398 千円)

(単位：千円)

項目	事業区分	要望			採択			実績		
		件数	補助対象 事業費	補助要望 金額	件数	補助対象 事業費	補助 金額	件数	補助対象 事業費	補助 金額
植樹祭記念事業 (特別枠)	(森とくらす) 環境教育	2	656	654	2	671	669	2	669	669
	(森とくらす) 森林体験	1	573	536	1	573	536	1	573	536
	小計	3	1,229	1,190	3	1,245	1,205	3	1,243	1,205
森をつくる	間伐	1	189	188	1	189	188	1	104	101
	植栽	4	1,332	1,331	4	1,332	1,331	4	1,411	1,331
	竹林整備	5	1,158	1,043	5	1,158	1,043	5	1,223	1,043
	里山整備	8	1,983	1,976	8	1,796	1,789	8	1,666	1,630
	小計	18	4,661	4,538	18	4,474	4,351	18	4,403	4,105
木をつかう	木材普及	3	1,967	1,941	3	1,967	1,941	3	1,452	1,442
	木工	11	3,417	3,411	11	3,391	3,385	11	3,613	3,603
	小計	14	5,384	5,352	14	5,358	5,326	14	5,065	5,045
森とくらす	環境教育	9	2,362	2,358	9	2,282	2,279	9	2,207	2,188
	森林体験	2	556	524	2	556	524	2	560	524
	炭焼	2	331	331	2	331	331	2	347	331
	小計	13	3,249	3,213	13	3,170	3,134	13	3,113	3,043
合計		48	14,524	14,293	48	14,247	14,016	48	13,823	13,398

※経費は千円単位としているため、端数処理の関係から、合計が一致しない場合があります。



【森をつくる活動】



【木をつかう活動】



【森とくらす活動】

【令和6年度新規事業紹介】

○木をつかう活動

団体名：廣瀬 正直

事業名：せとうちアクティビティ～木育～

実施場所：今治市

活動回数：16回

参加人数：471人

事業概要：子どもに木や森との関わりを潜在的に意識させながら、年齢に応じた「木をつかう活動」を行い多様な考え方があることを学ぶ機会を設ける。心豊かな人財への成長を期待する。



小中学生(今治海洋少年団)によるベンチづくり



高校生による木のボードと椅子づくり

○森とくらす活動

団体名：NPO 法人 ツナガルにいほま

事業名：つながる森マルシェ

実施場所：新居浜市

活動回数：9回

参加人数：179人

事業概要：木工ワークショップや森でのワークショップを行い、森と家庭との橋渡しをする。森の恵みを使った暮らしの魅力を伝え、引き継ぐ。



幼稚園児によるお絵描きキーホルダーづくり



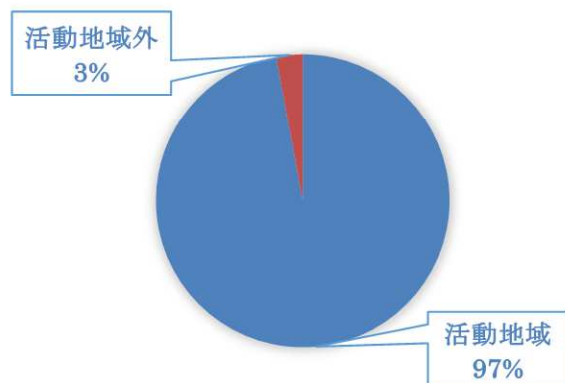
親子が参加しての活動フィールド整備

【令和6年度事業 参加者アンケート結果】

アンケート回答団体：29 団体（東予：13 団体、中予：8 団体、南予：8 団体）

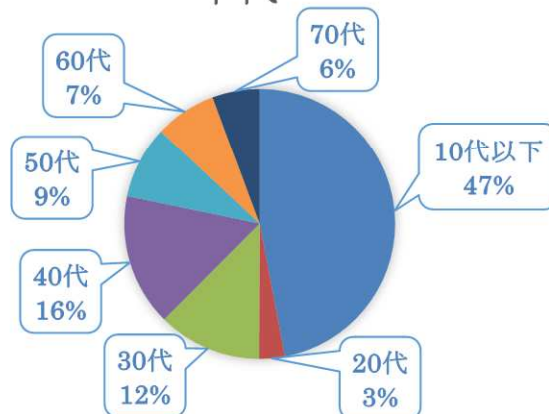
回答者数：653 名

参加者の居住地域



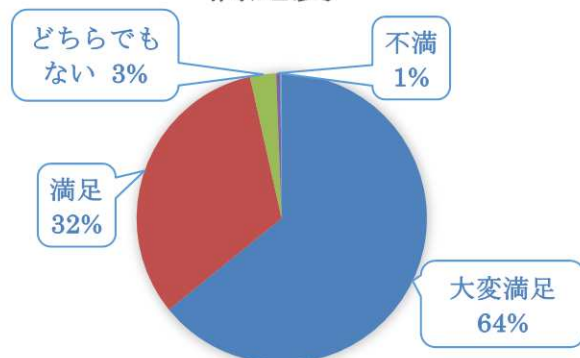
前年度（活動地域 97%）と同様に、居住地域での活動が大半を占めている。

年代



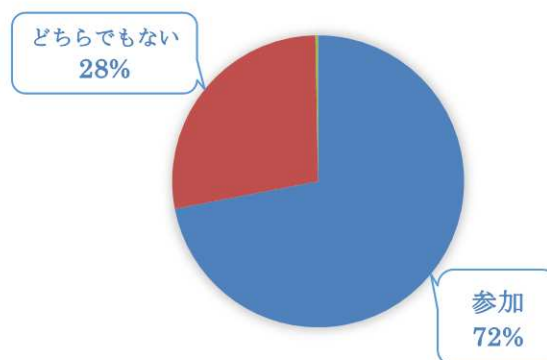
前年度（10 代以下 52%）と同様の傾向であり、概ね半数が 20 歳未満である。

満足度



前年度（大変満足 66%、満足 32%）と同様に高い満足度が得られている。

次回の参加



前年度と同様に、7 割以上の方が次回も参加したいと回答。

さんかしゃ みなさま 参加者の皆様へ

～ アンケートのお願い ～

愛媛県森の交流センター

今日は、当行事（イベント）にご参加いただき、誠にありがとうございます。

愛媛県では、第4期森林環境税を活用した「森林環境保全基金
公募事業」として、今回参加してもらっている行事（イベント）
に対して補助金を交付しています。

つきましては、今後の参考にさせていただくため、ご意見・ご感想をお聞かせください。

※裏面の質問事項にお答えください。

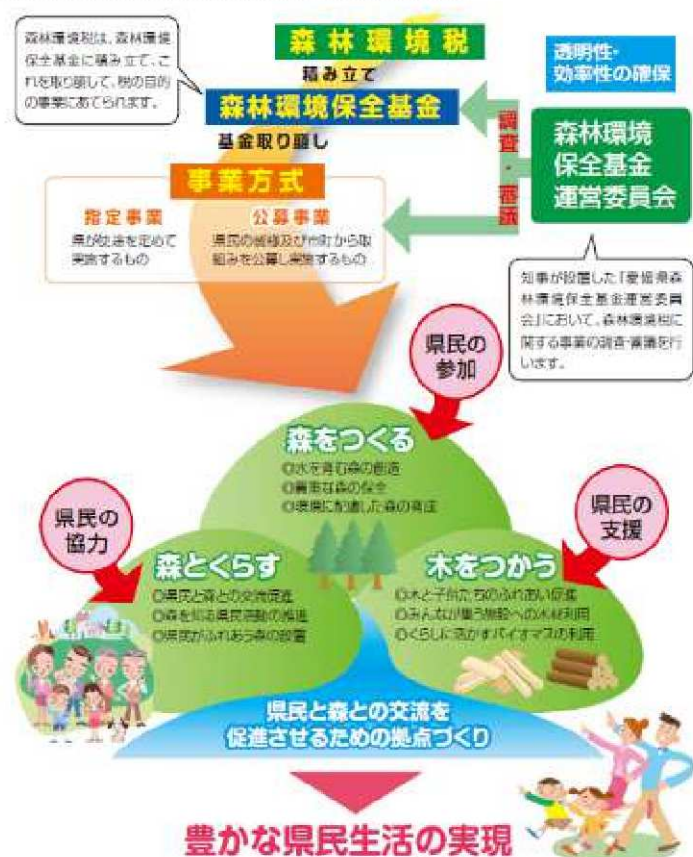
◇ 森林環境税とは ◇

森林環境税のしくみ

〔森林環境税について〕

森林環境税を活用した事業は、「森林環境の保全」と「森林と共生する文化の創造」を目指して、「森をつくる」、「木をつかう」、「森とくらす」の3分野について、皆様のご意見、ご提案を取り入れながら実施します。

なお、森林環境税の具体的な使いみちとしては、県が使いみちを定めて実施する「県指定事業」と、県民の皆様からの豊かな発想や自発的活動により実施する「公募事業」の2種類があります。



がいう
※該当するものに「○」をつけてください

1 ^{せいべつ}性別 ① ^{おとこ}男 ② ^{おんな}女

2 ^{ねんれい}年齢 ① 10代以下 ② 20代 ③ 30代 ④ 40代
⑤ 50代 ⑥ 60代 ⑦ 70代以上

3 ^{きょじゅうち}居住地

① ^{とうよ}東予 (^し市・^{ちょう}町) ② ^{ちゅうよ}中予 (^し市・^{ちょう}町)
③ ^{なんよ}南予 (^し市・^{ちょう}町) ④ ^{けんがい}県外 (^{とどうふけんめい}都道府県名 ^{こくめい}、国名)

4 ^{ぎょうじ}この行事(イベント)^{なに}を何で^し知りましたか？

① ^{しんぶん}新聞、^{しちょう}市町の^{こうほうし}広報誌、^し雑誌等 ② ^{ホームページ}H P、^{エスエヌエスなど}S N S等 ③ テレビ、ラジオ
④ ^{かいさいしゃ}開催者からの^{あんない}案内やメール ⑤ ^{がっこう}学校からの^{あんない}案内 ⑥ ^{かぞく}家族、^{ちじんとう}知人等から
⑦ その他 ()

5 ^{こんかいさんか}今回^{ぎょうじ}参加した行事(イベント)^{まんぞくど}の満足度はいかがでしたか？

① ^{たいへんまんぞく}大変満足 ② ^{まんぞく}満足 ③ どちらともいえない ④ ^{ふまん}不満 ⑤ ^{たいへんふまん}大変不満
(^{じょうきかいとう}上記回答の理由 : ^{りゆう})

6 ^{じかい}次回も^{こんかい}今回の行事(イベント)^{ぎょうじ}に^{さんか}参加したいですか？

① ^{さんか}参加したい ② どちらともいえない ③ ^{さんか}参加したくない
(^{じょうきかいとう}上記回答の理由 : ^{りゆう})

7 ^{こんかい}今回の行事(イベント)^{ぎょうじ}について^{いけん}ご意見・^{かんそう}ご感想を^{じゆう}ご自由^かにお書きください。

きょうりよく
☆ご協力ありがとうございました☆

令和 6 年度 積立金

全国植樹祭開催準備費

全国植樹祭開催準備費（一部森林環境税事業）

豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めることを目的とした「第76回全国植樹祭えひめ2026」の令和8年春の開催に向け、式典運営や会場整備等の準備を着実に進めるとともに、県民等に対し大会に向けた機運醸成を図ります。

1 ポイント

県民共有の財産である森林の重要性や木材利用に対する理解を深めるため、第76回全国植樹祭えひめ2026の開催準備を進めるとともに、県民から森林・林業などへのメッセージを募集し、大会演出等に活用する県民参加型の「明日(あした)の森林(もり)へ贈る愛(らぶ)レタープロジェクト」をはじめ、苗木のスクールステイ(育成体験)等の取組みを通じ、開催機運を醸成します。

2 事業内容

令和6年度は、式典や植樹等の骨子を盛り込んだ「基本計画」を策定したほか、お野立所の設計などの会場整備を進めるとともに、広報啓発活動により大会に向けた機運の醸成を図りました。

○事業内容

項 目	概 要
(1) 実行委員会関係	総会・幹事会・専門委員会の開催
(2) 全体計画関係	基本計画の策定
(3) 会場整備関係	お野立所のデザイン選定、植樹会場の整備 等
(4) 広報啓発関係	愛レタープロジェクト、苗木のスクールステイ、おうち de 植樹祭えひめ (PR 展示)、みんな de 植樹祭えひめ(応援事業)、植樹祭だより 等
(5) 関連事業	全国植樹祭関連行事「こどもの森づくりフォーラム」の開催

3 令和6年度実績額

(1) 実績額 35,607 千円（全体事業費 64,085 千円）

(2) 実施状況



お野立所(デザイン図)



愛レタープロジェクト



苗木のスクールステイ



こどもの森づくりフォーラム

4 事業期間

令和4年度 ～ 令和6年度

5 全体計画

事業内容		R4	R5	R6	計
計 画	森とふれあう活動への参加人数	3.8万人	5.1万人	5.2万人	14.1万人
	事業費	1,842 千円	15,194 千円	65,080 千円	82,116千円
	うち森林環境税	0 千円	13,118 千円	35,607 千円	48,725 千円
実 績	森とふれあう活動への参加人数	49,874 人	44,224 人	56,073 人	150,171 人
	事業費	1,374千円	15,128千円	64,085千円	80,587千円
	うち森林環境税	0千円	13,118千円	35,607千円	48,725千円
実施箇所		県内	県内	県内	

第2号議案

令和7年度愛媛県森林環境税活用事業について

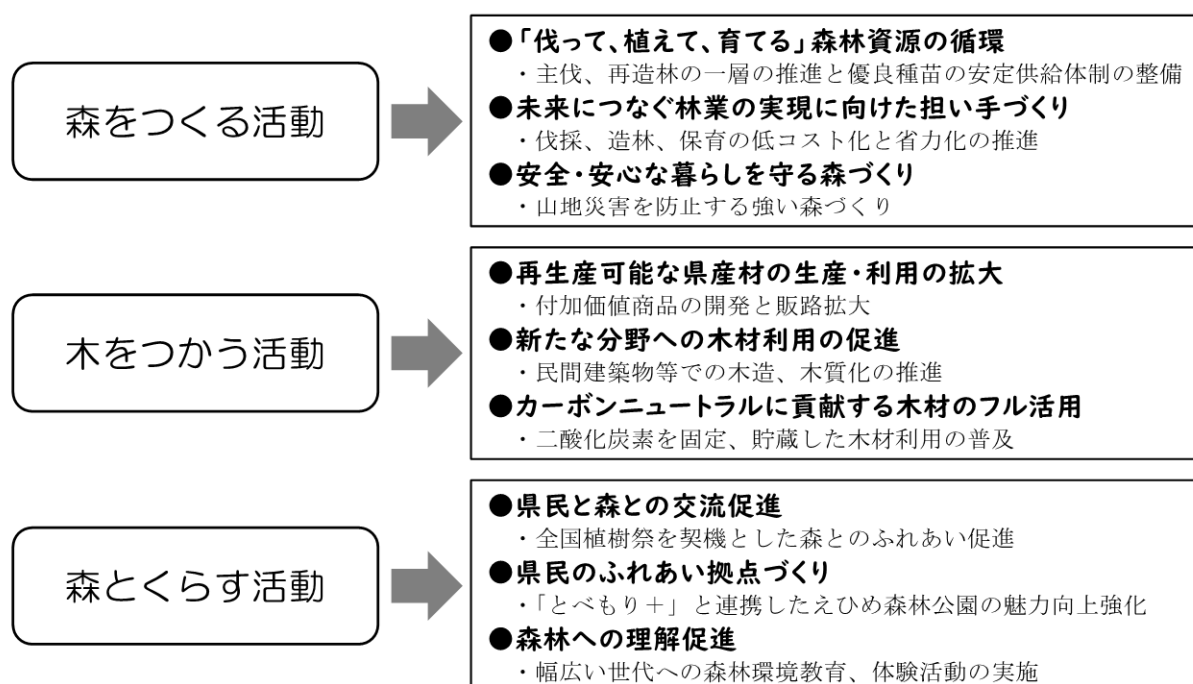
令和7年度 森林環境保全基金事業の予算編成方針について

1 予算編成方針について

森林環境税の予算化にあたっては、「森林環境の保全」と「森林と共生する文化の創造」を基本理念に、「森をつくる」「木をつかう」「森とくらす」の3分野において、次の施策を重点的に実施する。

- (1) 「伐って、植えて、育てる」森林資源の循環につながる主伐・再造林と安全・安心な暮らしを守る森づくり等の森林整備
- (2) 未来につなぐ林業の実現に向けた担い手づくり
- (3) 再生可能な県産材の生産・利用の拡大と新たな分野への利用促進、カーボンニュートラルに貢献する木材のフル活用
- (4) 県民が森とふれあう拠点づくりと森林への理解促進

分野別の主な取組内容



2 全国植樹祭への充当について

「全国植樹祭」は、国土緑化運動の中心的行事として、天皇・皇后両陛下のご臨席の下、(公社)国土緑化推進機構と開催都道府県との共催により開催されており、本県は令和8年春の第76回全国植樹祭の開催が決定している。

全国植樹祭のうち、県民の森林・林業や緑化に対する理解や木材利用の意義を深めるものなど、本税の趣旨に合致するプログラムについては経費負担が可能と考えており、第4期及び第5期森林環境税(R2～8年度)において3.5億円を積み立て、充当する。

令和7年度 森林環境保全基金事業一覧

(単位:千円)

区分	歳 入 内 訳	令和6年度	令和7年度
森林環境 保全基金 積立金	税収見込み額	547,269	552,294
	運用利息	308	783
	前々年度の税収超過額	7,118	12,717
	前年度残額	56,358	29,198
	積立金総計(A)	611,053	594,992
区分	歳 出 内 訳(予算事業名)	令和6年度	令和7年度
県 指 定 事 業	森をつくる活動	237,034	277,140
	① 森林整備推進事業(造林事業費)	68,080	68,000
	② 集落等山地災害危険地区整備事業費	40,000	50,000
	③ フォレスト・マイスター養成支援事業費	14,804	14,950
	④ 有害鳥獣総合捕獲事業費	51,780	51,780
	⑤ 特定鳥獣保護管理計画推進事業費	5,316	6,600
	⑥ 優良種苗確保事業費	29,303	36,419
	⑦ 林業躍進プロジェクト推進事業費	5,897	5,897
	⑧ 県産大径材生産促進事業費	7,993	7,993
	⑨ スマート林業人材育成研修事業費	1,996	3,655
	⑩ 新規林業就業者育成事業費	2,775	2,774
	⑪ 森林病虫獣害対策事業費	区分変更	3,288
	- 森林カーボンオフセット促進事業費	2,772	区分変更
	- エリートツリー活用省力化モデル事業費	5,000	-
	- えひめ農林水産業魅力発信事業費	1,318	-
	⑫ 未来につなげる森づくり促進事業費	-	24,000
	⑬ 林業後継者大会準備事業(全国植樹祭開催準備費)	-	1,784
	木をつかう活動	218,808	247,140
	① 木質バイオマス利用促進事業費	24,730	17,730
	② CLT等建築物建設促進事業費	77,963	63,490
	③ 木の香る公園施設整備費	2,000	4,000
	④ えひめ材住宅普及啓発事業費	70,373	87,776
	⑤ 愛媛県産材製品市場開拓促進事業費	13,710	17,365
	⑥ 特用林産物生産販売促進事業費	19,951	20,149
	- 南予家畜保健衛生所整備事業費	2,081	-
	- 愛媛県立北宇和高等学校馬術部厩舎改築事業	8,000	-
	⑦ 県庁第二別館整備事業費	-	9,630
	⑧ 久万高原庁舎整備事業費	-	16,000
	⑨ 駐在所等庁舎整備費	-	3,000
	⑩ 松山城北特別支援学校(仮称)整備事業費	-	8,000
	森とくらす活動	30,184	41,716
	① 県民と森との交流促進事業費	18,550	23,552
	② 「森に親しむ博物館」開催事業費	3,090	4,015
	- 森林病虫獣害対策事業費	2,164	区分変更
	③ アートの森プロジェクト事業(美術館展示事業費)	1,800	1,500
	④ えひめ森林公園魅力発信事業費	4,580	9,877
	⑤ 森林カーボンオフセット促進事業費	区分変更	2,772
公募	県民参加の森林づくり公募事業費	15,000	15,000
	指定事業・公募事業 予算総計(B)	501,026	580,996
	全国植樹祭 積立額 (C)	110,000	13,658
	総計 (B+C)	611,026	594,654
	差額 D = (A - B - C) ※次年度繰越金	27	338

【全国植樹祭積立金事業】

区分	歳 出 内 訳(予算事業名)	令和6年度	令和7年度
全国 植樹祭 積立金	当年度積立金	110,000	13,658
	前年度までの積立残額	207,183	274,617
	積立金総計(E)	317,183	288,275
区分	歳 出 内 訳(予算事業名)	令和6年度	令和7年度
関 連 事 業	①全国植樹祭開催準備費	35,607	106,867
	- えひめ森林公園魅力発信事業費(施設整備:えひめ森林公園維持管理費)	6,959	-
	事業費総計(F)	42,566	106,867
	差額 (E - F) ※次年度繰越金	274,617	181,408

令和 7 年度 県指定事業

森をつくる活動 関係事業

①森林整備推進事業費（造林事業費）

「えひめ農林水産業振興プラン2021」による森林整備を一層強化するため、国庫補助の対象とならない森林施業等に支援を行い、森林の有する多面的機能の高度発揮と持続可能な林業経営の確立、ひいては地球温暖化の防止等に貢献します。

1 ポイント

「えひめ農林水産業振興プラン 2021」に基づき、森林の有する地球温暖化防止や水源涵養及び県土保全機能等を持続的に発揮させるため、間伐や伐採後の再造林などの森林整備を積極的に推進します。

本事業では、国庫補助の対象とならない森林所有者自らが実施する森林施業等に対する支援を行うことによって、同プランの目標達成に寄与するとともに、健全な森林の保全と林業・木材産業の振興を図るものです。

2 事業内容

事業名	事業内容	採択要件
自伐林家支援	国庫補助事業の対象とならない森林所有者等が自ら行う森林施業に対して支援	・対象施業は、植栽、獣害対策、下刈、間伐等 ・1 施行地の面積が0.05ha以上
未整備森林再生	国庫補助事業の対象とならない林業事業者等が行う森林施業等に対して支援	・対象施業は、更新伐、森林作業道改良等 ・1 施行地の面積が0.10ha以上
林業架線作業支援	国庫補助事業の対象とならない林業事業者等が行う林業架線による森林施業に対して支援	・林業架線による木材生産等 ・1 施行地の面積が0.50ha以上

3 令和7年度予算額 68,000千円

4 事業期間 令和7年度 ～ 令和11年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	自伐林家(ha)	109	109	109	109	109	545
	森林再生(ha)	98	98	98	98	98	490
	架線作業(ha)	50	50	50	50	50	250
	事業費	68,000千円	68,000千円	68,000千円	68,000千円	68,000千円	340,000千円
	うち森林環境税	68,000千円	68,000千円	68,000千円	68,000千円	68,000千円	340,000千円
実績	自伐林家(ha)						
	森林再生(ha)						
	架線作業(ha)						
	事業費						
	うち森林環境税						
実施箇所							

②集落等山地災害危険地区整備事業費

「山地災害危険地区」のうち土砂流出防止機能等が著しく低下し、降雨によって集落等に被害を及ぼす恐れのある地区の森林について、本数調整伐等を実施し、下層植生を導入するなど土砂流出防止機能の高い健全な森林へと誘導します。

1 ポイント

近年、局地集中型豪雨や大規模地震等の異常天然現象が増加する傾向にあり、山地災害の様相が大きく変化していることから、継続的な公共治山事業と併せて、これまで想定していなかった山地災害に対する新たな対応が求められています。

本事業では、公共治山事業として採択されない「山地災害危険地区」のうち土砂流出防止機能等が著しく低下し、降雨等で集落等に被害を及ぼす可能性が高い地区の森林等を緊急に整備して山地災害危険地の解消を図ることとしています。

2 事業内容

(1) 溪流タイプ ・本数調整伐（間伐率 40%程度） ・簡易木製構造物（木製ダム・柵工等） ・その他森林機能回復のために必要なもの	【実施場所】 県が定めている山地災害危険地区であって、民有林治山事業の採択基準を満たさない箇所であること。 【事業主体】 県 【採択要件】 林分が過密化等して土砂流出防止機能等が低下している箇所、次のいずれかに該当するもの。 ① 溪流タイプ 現に森林が荒廃等して溪流に土砂の流出が認められる箇所で、整備対象森林面積が 10ha 以上、かつ、1 箇所の工事費（全体計画額）が 500 万円以上であること。 ② 山腹タイプ 人家 5 戸以上の集落後背部の森林で、整備対象面積が 5 ha 以上、かつ、1 箇所の工事費（全体計画額）が 250 万円以上であること。 ③ 機能回復タイプ 集落後背部の森林で、台風災害等により、土石や流木等の不安定堆積物が異常堆積し、森林が有する災害防止機能や既存治山施設の機能が低下している箇所であること。
(2) 山腹タイプ ・本数調整伐（間伐率 40%程度） ・簡易木製構造物（木製土留工、柵工等） ・その他森林機能回復のために必要なもの	
(3) 機能回復タイプ ・溪流内や既存治山施設に異常堆積した土石や流木等の除去 ・既存治山施設の軽微な修復	

3 令和 7 年度予算額 50,000 千円（事務費 2,300 千円含む）

4 事業期間 令和 7 年度 ～ 令和 11 年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	山地保全面積	90ha	90ha	90ha	90ha	90ha	450ha
	事業費	50,000 千円	50,000 千円	50,000 千円	50,000 千円	50,000 千円	250,000 千円
	うち森林環境税	50,000 千円	50,000 千円	50,000 千円	50,000 千円	50,000 千円	250,000 千円
実績	山地保全面積						
	事業費						
	うち森林環境税						
実施箇所							

③フォレスト・マイスター養成支援事業費

公益的機能を持つ森林を面的・効率的に整備する林業技術者(フォレストワーカー)や作業管理者(フォレスト・マイスター)を養成する研修を実施します。

1 ポイント

森林の持つ公益的機能を発揮するためには、適切な森林整備とそれに伴う木材生産の実施、搬出される木材の多面的利用を推進する必要があります。しかし、森林整備を行う林業の担い手は、減少しており、時代の要請に応える林業の担い手の確保が急務となっています。

このため、新規就業を希望する者に林業を行う上で必要な基本的知識・技術・資格を取得する研修を実施し、現場作業を担う林業技術者(フォレストワーカー)を養成するとともに、現場作業班のリーダー及び現場作業の管理者(フォレスト・マイスター)を養成し、林業の担い手を育成します。

2 事業内容

(1)フォレストワーカー養成コース 対象人数：年間14名 研修期間：27日間	森林整備に必要な基本的知識・技術・資格等の習得研修 ○講習内容：林業の基礎知識、造林育林技術、伐採技術、機械の構造と仕組み、森林病虫獣害の防除 ○取得資格：玉掛技能講習、小型車両系建設機械運転業務特別教育(整地等)、伐木等の業務に係る特別教育、刈払機取扱作業安全衛生教育、車両系林業機械特別教育(走行集材機械)
(2)林業架線作業技術コース 対象人数：年間14名 研修期間：30日間	林業架線作業に必要な基本的知識・技術・資格等の習得研修 ○講習内容：架線知識、架線法令、架線力学、架線設計、架線の架設・撤去、集材機操作、タワーヤーダ架設・撤去、スイングヤーダ架設・撤去、ワイヤーロープ実習 ○取得資格：林業架線作業主任者免許、小型移動式クレーン運転技能講習、簡易架線集材装置等の運転の特別教育、機械集材装置の運転の業務特別教育、はい作業従事者安全教育
(3)高性能林業機械作業技術コース 対象人数：年間12名 研修期間：35日間	高性能林業機械の活用およびコスト管理に必要な知識・技術・資格等の研修 ○講習内容：高性能林業機械の基本操作、高性能林業機械の構造と仕組み、作業システム運用実習、間伐作業の技術・経営・コスト管理 ○取得資格：大型自動車運転免許、車両系建設機械(整地等・解体)技能講習、不整地運搬車技能講習、フォークリフト運転技能講習、はい作業主任者技能講習、車両系林業機械特別教育(3種類)、地山の掘削及び土止め支保工作業主任者技能講習
(4)安全衛生教育指導者養成コース 対象人数：年間5名 研修期間：3日間	安全衛生及び技術向上に関する高度な指導者の養成研修 ○講習内容：現場管理方法、雇用者に対する指導方法、伐木等作業に関するKYT活動の進め方

3 令和7年度予算額 14,950千円

4 事業期間 令和7年度～令和11年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	森林整備面積	40ha	40ha	40ha	40ha	40ha	200ha
	研修受講者数	45人	45人	45人	45人	45人	225人
	事業費	14,950千円	14,950千円	14,950千円	14,950千円	14,950千円	74,750千円
	うち森林環境税	14,950千円	14,950千円	14,950千円	14,950千円	14,950千円	74,750千円
実績	森林整備面積						
	研修受講者数						
	事業費						
	うち森林環境税						
実施箇所							

④有害鳥獣総合捕獲事業費（一部森林環境税事業）

ニホンジカによる農林水産業等に係る被害を軽減し、森林等の公益的機能の保全や農林業従事者の生産意欲の減退を防ぐため、市町が行うニホンジカ捕獲事業を支援します。

1 ポイント

近年、ニホンジカによる森林被害や農作物被害が深刻化しているため、市町が行うニホンジカ捕獲事業を支援し、ニホンジカの捕獲を強化します。

2 事業内容

有害鳥獣総合捕獲事業

①補助対象

市町が、ニホンジカの捕獲を強化するため、銃器又はわなによりニホンジカを捕獲した者に対し、奨励金の交付等を行うのに要する経費に対して補助

②事業実施主体 市町

③補助率 1 / 2 以内

④基準経費 10,000円／頭

3 令和7年度予算額 51,780千円（全体事業費 108,000千円）

4 事業期間 令和7年度 ～ 令和11年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	捕獲計画数（全体）	10,800頭	10,800頭	10,800頭	10,800頭	10,800頭	54,000頭
	捕獲計画数（森林環境税分）	10,356頭	10,356頭	10,356頭	10,356頭	10,356頭	51,780頭
	事業費	108,000千円	108,000千円	108,000千円	108,000千円	108,000千円	540,000千円
	うち森林環境税	51,780千円	51,780千円	51,780千円	51,780千円	51,780千円	258,900千円
実績	捕獲実績数（全体）						
	捕獲実績数（森林環境税分）						
	事業費						
	うち森林環境税						
実施市町		ニホンジカにより森林被害及び農作物被害を受けている市町	ニホンジカにより森林被害及び農作物被害を受けている市町	ニホンジカにより森林被害及び農作物被害を受けている市町	ニホンジカにより森林被害及び農作物被害を受けている市町	ニホンジカにより森林被害及び農作物被害を受けている市町	

⑥優良種苗確保事業費（一部森林環境税事業）

優良種苗の安定供給を図るため、種子採取源の整備等を行うとともに、林業躍進プロジェクトの推進に向け、低コスト造林の実現に資するコンテナ苗等の利用促進や成長に優れた花粉症対策に資する特定母樹等の採種園整備・育成管理を行います。

1 ポイント

私たちの生活を守る森林は、植栽した苗木が立派に成長し成林するまでには、数十年の期間を要します。

この間、保育作業をはじめ多くの人手と経費が投入され、厳しい自然環境のもとで、病虫害や気象害の危険にさらされることになるので、植え付ける苗木の優劣は健全な森林を造成する上で大きな要因となります。

このため、県では優良な種穂を確保するため、スギ・ヒノキ等の優良母樹の整備に取り組むとともに、成長に優れた特定母樹やエリートツリー、花粉症対策品種、松くい虫抵抗品種など、県民のニーズに対応した品種の保全、低コスト造林として注目されているコンテナ苗等の利用促進など、新たな品種や技術等を普及し活力ある林業を目指します。

2 事業内容

事業名	事業内容
育種母樹林整備事業	県採種園（新居浜市・東温市・内子町・宇和島市）の管理及び着花結実を促進するためのジベレリン処理等を実施
花粉症対策品種等育成推進事業	愛媛県の気候に対応した花粉症対策品種の採穂台造成やその普及啓発・育苗技術習得を実施
苗木供給体制整備事業 （※森林環境税事業）	第2世代精英樹や花粉症対策品種からなるミニチュア採種園の造成や、低コスト造林に資するコンテナ苗木の生産支援等を実施
種子採取事業 （※森林環境税事業）	林業躍進プロジェクトの推進に向けて、再造林に必要な優良種苗を確保するための種子を県採種園において採取し貯蔵

3 令和7年度予算額 36,419千円（全体事業費 43,602千円）

4 事業期間 令和7年度～令和11年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	母樹導入 ^ア	920本	400本	200本		100本	1,620本
	母樹導入 ^{ヒノ}	156本	300本	50本	300本	100本	906本
	種子生産量	6.54kg	35.61kg	39.67kg	20.66kg	41.62kg	144.10kg
	事業費	43,602千円	37,000千円	35,000千円	35,000千円	35,000千円	218,010千円
	うち森林環境税	36,419千円	30,000千円	28,000千円	28,000千円	28,000千円	182,120千円
実績	母樹導入 ^ア						
	母樹導入 ^{ヒノ}						
	種子採種量						
	事業費						
	うち森林環境税						
実施箇所							

⑦林業躍進プロジェクト推進事業費（一部森林環境税事業）

林業躍進プロジェクト（第2期）の進行管理や次期プロジェクトの検討を行うとともに、県民に向けた当県の森林・林業に係る情報発信等を行う。

1 ポイント

「えひめ農林水産業振興プラン 2021」及びその実行プログラムである「林業躍進プロジェクト（第2期）」の進行管理や、次期プロジェクトの検討を行うため、県民との意見交換のための会議を開催するほか、2050 カーボンニュートラル社会の実現に向けた持続可能な森林経営など SDGs に関する情報を発信することにより、県民や企業に対し、森林・林業に対する理解と森づくりへの参画を促進する。

2 事業内容

事業名	事業内容
(1) 林業躍進プロジェクト（第2期）推進事業	林業躍進プロジェクト（第2期）の進行管理や次期プロジェクトの検討を行うため、推進会議等を開催する。
(2) 林業躍進プロジェクト普及事業	林業普及指導員が中心となって、主伐や再造林などスマート林業の導入、団地化等による施業の集約化の推進など、森林所有者や林業事業体へ普及啓発するとともに、広報活動等を積極的に活用する。
(3) 「えひめ森林・林業」情報発信事業	森林・林業の情報発信力を強化し、担い手確保や林業のイメージアップを図る。

3 令和7年度予算額 5,897千円（全体事業費 8,672千円）

4 事業期間 令和7年度 ～ 令和11年度

5 全体計画

事業内容	R7	R8	R9	R10	R11	計
計画						
推進会議等の開催	4回	4回	4回	4回	4回	20回
県民参加人数	100人	100人	100人	100人	100人	500人
事業費	8,672千円	8,672千円	8,672千円	8,672千円	8,672千円	43,360千円
うち森林環境税	5,897千円	5,897千円	5,897千円	5,897千円	5,897千円	29,485千円
実績						
推進会議等の開催						
県民参加人数						
事業費						
うち森林環境税						
実施箇所	県下全域	県下全域	県下全域	県下全域	県下全域	県下全域

⑧県産大径材生産促進事業費

大径材に対応できる機械や路網の改良、集積・保管場所の確保、サプライチェーンの構築に要する経費の一部を支援します。

1 ポイント

山から生産される大径材の占める割合は年々加速しており、大径化した原木を安全かつ効率的に出荷するには路網や機械等の基盤整備に加え、大径材の安定供給体制構築が急務となっています。

本事業では、大径材を安全かつ効率的に生産・資源循環できるシステムを構築するため、大径材に対応した林内路網の拡幅や生産・再造林に係る作業システムの改良に要する経費の一部を支援します。

2 事業内容

事業名	事業内容
(1) 生産システム整備支援	大径材を安全かつ効率的に生産・資源循環できるシステムを構築するため、大径材に対応した林内路網の拡幅や素材生産・再造林に係る作業システムの改良に要する経費の一部を支援する。
(2) 集積・保管場所確保支援	大径材用途の多様化に対応するため、集積・保管・仕分け場所（山土場や中間土場など）の確保や整備に要する経費の一部を支援する。
(3) サプライチェーン構築支援	大径材を製材工場へ安定的に供給するためのサプライチェーン構築にあたり、大径材生産管理に資するICT機材等導入経費の一部を支援する。

3 令和7年度予算額 7,993千円（全体事業費 7,993千円）

4 事業期間 令和7年度 ～ 令和11年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計 画	生産システム 整備数	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	10箇所
	土場整備数	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	2箇所	10箇所
	サプライチェ ーン構築数	2体制	2体制	2体制	2体制	2体制	10体制
	事業費	7,933 千円	7,933 千円	7,933 千円	7,933 千円	7,933 千円	39,665 千円
	うち森 林 環 境税	7,933 千円	7,933 千円	7,933 千円	7,933 千円	7,933 千円	39,665 千円
実 績	生産システム 整備数						
	土場整備数						
	サプライチェ ーン構築数						
	事業費						
	うち森 林 環 境税						
実施箇所		県下全域	県下全域	県下全域	県下全域	県下全域	県下全域

⑨スマート林業人材育成研修事業費（一部森林環境税事業）

森林・林業分野においてもＩＣＴ等のＤＸ技術を活用して施業の効率化を図ることが期待されているため、林業事業体を対象とする研修を実施してスマート林業を実現する人材を育成します。

1 ポイント

近年、国産材の需要が高まる一方、林業分野でも担い手の減少が進んでおり、ＩＣＴ等のＤＸ技術を活用した業務の効率化を図ることが不可欠となっています。

本事業では、林業研究センターが林業事業体等の従事者を対象に、林業に係るＤＸの基礎から、携帯型森林情報システム等の活用、ドローンを使用した効率化技術等を体系的に修得できる実習を行うことで、ＤＸ技術を林業の現場でフル活用できるスマート林業人材の育成に取り組むこととしています。

スマート林業においては、施業計画から造林・伐採・搬出、流通などに至る工程において、ＤＸ技術をフル活用することを目指しており、スマート林業人材を育成することで、林業における労働負荷の軽減、作業の安全確保、生産性向上を推進します。

2 事業内容

スマート林業技術研修

区分	項目	目的	日程	定員、回数
DX基礎技術研修		スマート林業基礎的知識を有する人材を育成するため、ＩＣＴ／ＩＯＴ、ドローン、ＡＩ、森林クラウド、サプライチェーンマネジメント等の最新技術の可能性と利用方法に関する幅広い知識の習得	1日間 (室内のみ)	人数:60名、 回数:1回
DX実践 技術研修	①携帯型森林情報システム（フォレストトラック）	現在における位置情報と森林情報の迅速に把握することが可能となる当該システムの利用方法の習得	1日間 (現地半日、 室内半日)	人数:4名 回数:3回
	②地理情報システム（GIS）	森林の位置情報に関するデータを総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能とする当該システムの利用方法の習得	1日間 (室内のみ)	人数:4名 回数:3回
	③デジタルコンパス	林地の周囲測定の迅速化、省力化	1日間 (現地半日、 室内半日)	人数:4名 回数:3回
	④衛星測位システム（GNSS）	地上での現在位置を正確に計測し、取得データによる面積測等を可能とする当該システムの利用方法の習得	1日間 (現地半日、 室内半日)	人数:4名 回数:3回
DX応用 技術研修	⑤ドローン基本操作	ドローンに関する基礎知識と操作技術の習得	1日間 (現地のみ)	人数:4名 回数:3回
	⑥ドローン空撮	ドローン空撮技術の習得	1日間 (現地半日、 室内半日)	人数:4名 回数:3回
	⑦ドローン解析	ドローンにより取得したデータを解析、利用するための技術の習得	1日間 (室内のみ)	人数:12名 回数:1回
	⑧地上レーザースキャナー	地上レーザースキャナーによる正確かつ迅速な林内情報の取得及び利用技術の習得	1日間 (現地半日、 室内半日)	人数:12名 回数:1回
	⑨木材検収システム	はい丸太情報を瞬時に把握できるソフト等を利用する技術の習得	1日間 (現地半日、 室内半日)	人数:12名 回数:1回
	⑩ICT ハーベスタ	1本の丸太から販売価格が最大となるよう自動で採材や仕分けを可能とするICTハーベスタの利用技術の習得	1日間 (現地半日、 室内半日)	人数:12名 回数:1回

3 令和7年度予算額

3,655千円

4 事業期間

令和7年度 ～ 令和11年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	研修受講者数	60人	60人	60人	60人	60人	300人
	事業費	3,655千円	3,655千円	3,655千円	3,655千円	3,655千円	18,275千円
	うち森林環境税	3,655千円	3,655千円	3,655千円	3,655千円	3,655千円	18,275千円
実績	研修受講者数						
	事業費						
	うち森林環境税						
実施箇所							

⑩新規林業就業者育成事業費

林業への新規就業者を確保するため、林業事業体と就業希望者とのマッチングを促進する就業相談会を開催します。

1 ポイント

森林の持つ公益的機能を発揮するためには、適切な森林整備とそれに伴う木材生産の実施、搬出される木材の多面的利用を推進する必要があります。しかし、森林整備を行う林業の担い手は、減少しており、時代の要請に応える林業の担い手の確保が急務となっています。

このため、林業労働力確保支援センターを中心として、県内の林業事業体と就業希望者とのマッチングを促進する就業相談会を開催し、幅広く林業の担い手を確保します。

2 事業内容

林業の新規就業者を確保するため、林業労働力確保支援センターが中心となり、就業相談会「森林の仕事ガイダンス」を年2回開催し、就業希望者が広く林業に関する情報（林業の仕事の特色や作業内容等）を収集する機会や就業に向けて不安に思っていることに対して相談できる機会を創出します。

3 令和7年度予算額 2,774千円（全体事業費 4,328千円）

4 事業期間 令和7年度～令和11年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	新規林業就業者数	60人	60人	60人	60人	60人	300人
	事業費	4,328千円	4,328千円	4,328千円	4,328千円	4,328千円	21,640千円
	うち森林環境税	2,774千円	2,774千円	2,774千円	2,774千円	2,774千円	13,870千円
実績	新規林業就業者数						
	事業費						
	うち森林環境税						
実施箇所							

⑪森林病虫害獣害対策事業費（一部森林環境税事業）

県木である松を守るため、必要最小限度の松くい虫薬剤樹幹注入を行い、松林を保全することに加え、ナラ枯れ被害発生地で現地調査及びトラップの設置、顕微鏡を使った同定を行い、ナラ枯れ被害拡大防止を図る。

1 ポイント

県木である松を守るため、従来から行っている薬剤樹幹注入の予防措置を実施することで、引き続き適切な防除に努めることとします。また、令和6年度に県内で初確認されたナラ枯れ被害について、現地調査による被害状況の把握を行います。

2 事業内容

（1）松のみどりを守る活動事業

【樹幹注入】松くい虫による枯死を予防するため、松に薬剤を注入する。

（2）ナラ枯れ被害状況調査事業

県内でのナラ枯れ被害拡大防止のため、現地調査及びトラップの設置、顕微鏡を使った同定を行う。

3 令和7年度予算額 3,288千円（全体事業費 8,217千円）

4 事業期間 令和7年度 ～ 令和11年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計 画	樹幹注入量(m ³)	348	348	348	348	348	1,70
	調査地域数(箇所)	9	9	9	9	9	45
	事業費	7,393千円	7,393千円	7,393千円	7,393千円	7,393千円	36,965千円
	うち森林環境税	3,288千円	3,288千円	3,288千円	3,288千円	3,288千円	16,440千円
実 績	樹幹注入量(m ³)						
	事業費						
	うち森林環境税						
実施箇所							

⑫未来につなげる森づくり促進事業費

木材供給の拠点である経営林を対象とし、循環利用が可能な森づくりに向けて、植栽の新たな研究技術の活用や伐採者による機械地拵えの普及や効率化を図ることで下刈拡大につながる取組を支援し、再造林面積の増加を図ります。

1 ポイント

本県の人工林資源は高齢化が進んでおり、今後、間伐による木材生産に適した森林が急激に減少することから、県産材の安定供給には主伐による木材生産の割合を上げる必要があり、これまで段階的に主伐の導入を推進してきました。

しかし、ニホンジカの食害対策費用や植栽後の数年間は下刈りが必要となるなど再造林に係るコストが高むことや、下刈りが行われる夏場は過酷な作業環境のため労働力の確保が難しいことから、主伐面積は伸び悩んでおり、再造林を推進する新たな取組が必要となっています。

本事業では、森づくりに必要な再造林の省力化・低コスト化の課題を解消するため、従来の常識にとらわれない新たな手法や、技術の導入を支援することで、未来につなげる森づくりに向けて、主伐による循環利用が可能な森づくりを目指します。

2 事業内容

事業名	事業内容
経営林整備促進事業	①エリートツリーモデル事業 成長が早い苗木による下刈実施年数の短縮や植栽本数低減による低コスト化の実証 ②シカ対策苗木モデル事業 大苗によるシカの食害低減効果や獣害防護柵の設置経費削減による低コスト化の実証 ③機械地拵え導入促進事業 従来は植栽者が人力で行っている地拵えを伐採者が代わりに機械で行う実証 ④下刈拡大支援事業 従来手法にとらわれず効率化を図り、下刈面積を拡大した取組を支援
研修会の開催	再造林の増加につながる省力化・低コスト化に資する技術の普及啓発を図るため、経営林整備促進事業で得られた成果を報告するなど、優良事例を広く関係者で共有し、早期の現場定着が図られる実践的な研修会を開催

3 令和7年度予算額 24,000千円

4 事業期間 令和7年度 ～ 令和9年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	計
計画	再造林面積 (年間増加面積)	150ha	150ha	150ha	450ha
	研修参加人数	50人	50人	50人	150人
	事業費	24,000千円	24,000千円	24,000千円	72,000千円
	うち森林環境税	24,000千円	24,000千円	24,000千円	72,000千円
実績	事業実施面積				
	研修参加人数				
	事業費				
	うち森林環境税				
実施箇所					

令和 7 年度 県指定事業

木をつかう活動 関係事業

①木質バイオマス利用促進事業

林地残材等の木質バイオマスの利用拡大を促進するとともに、未利用材の流通システムの構築を支援し、中山間地域を支える林業の振興、木材の利用拡大を図ります。

1 ポイント

森林整備により発生し、林内に放置されている林地残材等の木質バイオマス利用を進めるため、木質バイオマスの搬出等に係る経費の支援を行い、発電用チップ等の原料として安定的に利用する事業を促進するとともに、未利用材の生産流通システムの構築・検証を支援します。

2 事業内容

(1) 林地残材発電利用促進事業

採算が合わない為に放置されている不定形な林地残材を木質バイオマス発電用途にむけ供給する取組を支援します。

事業主体 : 林地残材を資源化し県内の木質バイオマス発電所に供給する者
補助対象者 : 森林所有者
補助対象木材 : 森林内で発生した林地残材のうち、重量で取引される発電用の木質バイオマス
補助金額 : 16,200 千円 (675 円/ t 以内 : 基準単価(8,000 円/ t)と買取単価の差額 1/2 以内)

(2) 木質バイオマス・エネルギー利用普及促進事業

県内における中小木材産業の木質バイオマス利用を促進するため、エネルギー利用の実態調査を行うとともに、施設導入計画等の作成を支援し、エネルギー効率の向上を図ります。

3 令和7年度予算額 17,730 千円

4 事業期間 令和7年度 ～ 令和11年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	林地残材等の資源化量(t)	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	120,000
	事業費	17,730 千円	17,730 千円	17,730 千円	17,730 千円	17,730 千円	88,650 千円
	うち森林環境税	17,730 千円	17,730 千円	17,730 千円	17,730 千円	17,730 千円	88,650 千円
実績	林地残材等の資源化量(t)						
	事業費						
	うち森林環境税						
実施個所							

② C L T 等建築物建設促進事業

本県が全国に先駆けて普及を図る県内で製造される C L T (直交集成板) や県産材を活用した公共施設等や民間建築物の木造化や木質化の拡大を支援し、脱炭素社会の実現を目指します。

1 ポイント

県内で製造される C L T 等県産材を活用を図るため、民間企業との木材利用促進協定の締結を図るほか、民間の C L T 建築物への建設・設計支援や設計技術者等の育成、一般県民への普及・PR を推進します。

2 事業内容

(1) C L T 建築物建設促進事業

① C L T 建築物支援事業

C L T の需要拡大のため、これまで木材が使われていなかった民間の商業施設をはじめとする中高層建築物や低層の非住宅分野における建設・設計に対し支援を行い、C L T 建築物の建設を促進させることで、C L T の需要拡大を図ります。

事業区分	事業内容	補助単価、補助率	補助金の上限
建設支援事業	CLT 建築物の建設に対する補助	CLT 使用量に対する定額補助 (90 千円/㎡)	5,000 千円/施設
設計支援事業	CLT 建築物の設計に対する補助	CLT 建築物の設計に要する経費の 1/2 以内	2,000 千円/施設

② C L T 建築物普及促進事業

設計士、施工業者及び加工業者等の実務者を対象に実務的な体験型セミナーを開催し、C L T に関する実務者の育成を図るほか、一般消費者等への普及 PR により、C L T 建築物の建設を促進します。

③ C L T 普及促進情報整備事業

既存の C L T 建築物における住環境評価を検証し、結果を活用することで、C L T 建築物の建設促進につなげます。

④ 普及促進事業

(一社) 日本 C L T 協会等が実施する研修会やセミナー等において、普及効果の高い C L T 建築物の建設事例や各種工法の情報収集を実施し、県内での C L T 利用を普及・促進します。

(2) 公共的施設等木材利用促進支援事業

① 民間建築物木材利用支援事業

国や県と「建設物木材利用促進協定」を結んだ企業等の民間施設に対して、非住宅建築物の木造化や内装木質化に係る経費の一部を支援します。

事業区分	事業内容	補助単価、補助率	補助金の上限
民間建築物 木材利用支援	事務所、店舗等の木造化や内装 木質化に係る補助	木工事費の 1/2 以内	5,000 千円/施設

② 公共的施設木製家具等普及促進支援事業

公共的な役割を果たす民間施設に対して、木製家具等を設置することにより、広く県民等に木材のすばらしさを伝え、県産材の利用促進と本県のイメージアップを図ります。

③ 県庁第二別館木製什器支援事業

県産ヒノキの新しい利用用途として開発された、県産材ヒノキを圧密加工した会議机を県庁第二別館の新庁舎会議室に設置して、県産材の利用と普及促進を図ります。

3 令和 7 年度予算額 63,490 千円

4 事業期間 令和 7 年度～令和 11 年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	C L T 建築物数	5施設	5施設	5施設	5施設	5施設	25施設
	C L T 設計件数	4件	4件	4件	4件	4件	20件
	C L T 建築物普及 セミナー回数	3回	3回	3回	3回	3回	15回
	民間建築物木材 利用件数	4施設	4施設	4施設	4施設	4施設	24施設
	事業費	63,490千円	63,490千円	63,490千円	63,490千円	63,490千円	317,450千円
	うち森林環境税	63,490千円	63,490千円	63,490千円	63,490千円	63,490千円	317,450千円
実績	C L T 建築物数						
	C L T 設計件数						
	C L T 建築物普及 セミナー回数						
	民間建築物木材 利用件数						
	事業費						
	うち森林環境税						
実施箇所							

③木の香る公園施設整備事業費

利用者に優しい木材を使用した公園施設の整備を進めていきます。

1 ポイント

「木をつかう」事業の一環として、県管理の都市公園において、休憩所やベンチなどの新たな施設を木製品で整備することにより、利用者が優しく温もりを感じることができる公園の整備を進めるとともに、景観的にも周囲の樹木と調和した緑豊かな安らぎ空間を提供するものです。

※県管理の都市公園

県営総合運動公園（とべ動物園を含む）、道後公園、南予レクリエーション都市公園

2 事業内容

- 事業箇所 県立とべ動物園（伊予郡砥部町）
- 施設概要 木製テーブル、木製ベンチ
- 整備効果 とべ動物園に木製のテーブルとベンチを整備することにより、憩いと安らぎの空間が創造され、利用者へのサービス向上、公園のイメージアップとなる。
さまざまな人々が集い、ふれあいの場となる都市公園に愛媛県産木材を利用した施設を設置することは、木材に対する理解や関心を深めることに繋がり、木材の利用促進にも寄与する。

3 令和7年度予算額 4,000千円

4 事業期間 令和7年度 ～ 令和11年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	ふれあう人数	113,400人	36,700人	38,800人	56,400人	38,800人	284,100人
	事業費	4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	20,000千円
	うち森林環境税	4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	20,000千円
実績	ふれあう人数	人	人	人	人	人	人
	事業費	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	うち森林環境税	千円	千円	千円	千円	千円	千円
実施箇所		とべ動物園 木製公園施設1式 (木製テーブル2基 木製ベンチ16基)	第1号南予レクリエーション 都市公園 木製公園施設1式 (木製テーブル12基 木製ベンチ30基)	第3号南予レクリエーション 都市公園 木製公園施設1式 (パーゴラ1基)	県営総合運動公園 木製公園施設1式 (木製テーブル2基 木製ベンチ16基)	第7号南予レクリエーション 都市公園 木製公園施設1式 (東屋 1棟)	

④えひめ材住宅普及啓発事業

県産材や木造住宅の良さを普及啓発する相談窓口の開設・運営、県産材を利用する住宅や非住宅（事務所や店舗等）の新築や内装木質化への木材利用を促進し、工務店等が実施する県産材の普及PR活動を支援し、県産材の需要拡大を図ります。

1 ポイント

木材や木造住宅の良さを普及啓発する相談窓口の開設・運営や良質な県産材製品を利用する住宅及び非住宅の新築及び木質内装化、工務店等が実施する県産材の普及PR活動を支援するとともに、住宅等における県産材の需要拡大、工務店や消費者等へのJAS製品及び森林認証材の普及定着を図り、木材利用による持続的な森林整備を推進します。

2 事業内容

（1）木と暮らしの相談窓口開設支援事業

木造住宅や木材利用全般に関する相談窓口を開設し、県産材等の普及啓発する活動を支援します。

- | | |
|--------------------|------------------------|
| ①相談窓口の設置（常設） | ④見学会の開催（消費者向け） |
| ②研修会等の開催（設計・施工者向け） | ⑤住宅関係の情報発信（イベント出展、HP等） |
| ③出前木材利用相談窓口 | ⑥木をつかう教育等の促進 |

（2）えひめ材の家づくり促進支援事業

住宅を建設する施主に対して、県産柱材及び県産森林認証柱材を無償提供します。

【在来軸組工法】

- 提供柱材 1棟当たり64本以内：（県産材）198千円/件、支援件数250件
（県産森林認証材）243千円/件、支援件数50件
梁・桁について、県産材を100%使用した場合、特別加算60千円/件 支援件数20件

【軸組壁工法】

- ツーバイフォー材：（県産材）172千円/件、支援件数5件

（3）住宅等リフォーム木材利用促進事業

個人住宅や店舗等のリフォームを行う施主に対して、県産材製品の利用を支援します。

- 住宅等1件当たり100千円（下限）～168千円（上限）、支援件数30件

（4）外構施設木材利用促進事業

個人住宅や店舗等に外構施設を設置する施主に対し、県産材製品の利用を支援します。

- 設置工事1件当たり100千円（下限）～168千円（上限）、支援件数20件

（5）非住宅建築物木材利用促進事業

県産材を利用した非住宅建築物の建築や内装木質化を行う民間事業者等を対象に、県産材製品の利用を支援する。

- 木造化支援（ヒノキ材）897千円/件、支援件数4件
○木造化支援（ツーバイフォー材）639千円/件、支援件数1件
○内装木質化支援1,055千円/件、支援件数4件

3 令和7年度予算額 87,776千円

4 事業期間 令和7年度～令和11年度

木をつかう活動

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	相談窓口相談件数	600	600	600	600	600	3,000
	柱材提供件数	305	305	305	305	305	1,525
	住宅等リフォーム木材利用件数	30	30	30	30	30	150
	外構施設木材利用件数	20	20	20	20	20	100
	非住宅建築物木材利用件数	5	5	5	5	5	20
	事業費	87,776 千円	87,776 千円	87,776 千円	87,776 千円	87,776 千円	438,880千円
	うち森林環境税	87,776 千円	87,776 千円	87,776 千円	87,776 千円	87,776 千円	438,880千円
実績	相談窓口相談件数						
	柱材提供件数						
	住宅等リフォーム木材利用件数						
	外構施設木材利用件数						
	非住宅建築物木材利用件数						
	事業費						
	うち森林環境税						

⑤愛媛県産材製品市場開拓促進事業

信頼性のある県産材の販売体制整備や大消費地での市場開拓に対して支援するとともに、木材の新たな利用用途開発等を支援することで、林業経営の安定と森林整備を推進します。

1 ポイント

愛媛県産材製品市場開拓協議会が行う3大都市圏等の大消費地における愛媛県産材やCLTの販路拡大を支援するとともに、有力な木材需用者に対する知事トップセールスやマッチング商談会を実施し、県産材の需要拡大を促進します。

2 事業内容

- (1) 販売体制整備事業【事業主体：愛媛県産材製品市場開拓協議会】
 - 3大都市圏等における大手商社・住宅メーカー、設計事務所等に対するセールス等の実施
 - 非住宅や中高層建築物を手掛ける大手建設会社等に対しCLT営業活動の実施
- (2) 愛媛県産材販売促進事業【事業主体：愛媛県(一部委託(愛媛県産材製品市場開拓協議会))】
 - 首都圏の大手商社、住宅メーカー等を対象にマッチング商談会を実施するとともに、展示会等へ出展により、効率的に商談機会を創出するとともに、有力木材需用者への知事トップセールスを実施するなど、県産材製品の販路開拓を実施します。
- (3) 新たな県産材利用促進事業【事業主体：民間事業者等】
 - ①県産材利用用途開発事業
 - 県産材を使用した新商品や利用方法の開発に取り組もうとする民間企業への支援
 - ②愛媛県産材イベント出展事業
 - 県産材を活用し開発された商品をイベント等に出展し、県産材製品の新たな需要を創出

3 令和7年度予算額 17,365千円

4 事業期間 令和7年度～令和11年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	県産材営業活動の実施	3回	3回	3回	3回	3回	15回
	建材関係展示会への出展	2回	2回	2回	2回	2回	10回
	新たな県産材利用件数	5件	5件	5件	5件	5件	25件
	イベントへの出展	1回	1回	1回	1回	1回	1回
	事業費	17,365千円	17,365千円	17,365千円	17,365千円	17,365千円	86,825千円
	うち森林環境税	17,365千円	17,365千円	17,365千円	17,365千円	17,365千円	86,825千円
実績	県産材営業活動の実施						
	建材関係展示会への出展						
	新たな県産材利用件数						
	イベントへの出展						
	事業費						
	うち森林環境税						

⑥特用林産物生産販売促進事業費（一部森林環境税事業）

特用林産物の生産者確保及び収量の安定化を図るため、生産基盤の強化を図るほか、ブランド力強化のための取組みを実施します。

1 ポイント

原木乾しいたけ等の特用林産物は、農山村地域の活性化を図るうえで重要な品目となっている一方、生産者の減少や気候変動による豊凶等により、生産量が思うように伸びていない現状にあります。

そこで、特用林産物の生産者確保及び収量の安定化や生産基盤の強化に加えて、消費宣伝活動、新たな販路の開拓やメニュー開発等により、ブランド力の強化を目指すとともに、地域の資源を活用した農山村地域の活性化を図ります。

2 事業内容

事業名	事業内容
(1) 特用林産物生産促進事業	生産者・森林組合等を対象とし、生産促進支援に取り組む
(2) 特用林産物販売・消費拡大支援事業	生産者・消費者当を対象とし、販売・消費拡大支援に取り組む

3 令和7年度予算額 20,149千円（全体事業費 20,836千円）

4 事業期間 令和7年度 ～ 令和11年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	ふれあう人数	200人	200人	200人	200人	200人	1,000人
	木材使用料	2,000m3	2,000m3	2,000m3	2,000m3	2,000m3	10,000m3
	事業費	20,836千円	20,836千円	20,836千円	20,836千円	20,836千円	104,180千円
	うち森林環境税	20,149千円	20,149千円	20,149千円	20,149千円	20,149千円	100,745千円
実績	ふれあう人数						
	木材使用料						
	事業費						
	うち森林環境税						
実施箇所		県下全域	県下全域	県下全域	県下全域	県下全域	県下全域

⑦県庁第二別館整備事業費

第二別館について、防災機能の強化を図るとともに、官民共創拠点の整備や執務室のスマートオフィス化により、D Xや新しい働き方を推進する拠点として整備します。

1 ポイント

県庁第二別館建替えにおける施設整備の基本的な考え方の一つに、「省エネルギーと木材活用による環境に配慮した庁舎」を位置付けており、県産材を活用したC L Tを耐震壁として各階の南北面を中心に使用することで、温暖化対策を加速させるとともに、地域を潤すC L T活用モデルとして発信するほか、県民に環境と調和する温かみのある空間を提供します。

※C L T耐震壁設置のほか、太陽光パネルや雨水貯留槽の設置、電気自動車（E V）用急速充電器の整備等により、環境配慮型庁舎の実現を図ります。

2 事業内容

構 造 S造（地下1階柱頭免震）＋C L T耐震壁
階 数 地上11階＋機械フロア／地下1階
最高高さ 51.5 m
延べ面積 14,255.36㎡

3 令和7年度予算額 9,630千円（全体事業費5,535,391千円）

4 事業期間 令和7年度

5 全体計画

事業内容		R7	計
計 画	CLT耐震壁	107㎡	107㎡
	事業費	5,535,391千円	5,535,391千円
	うち森林環境税	9,630千円	9,630千円
実 績	CLT耐震壁		
	事業費	千円	千円
	うち森林環境税	千円	千円
実施箇所		松山市	

⑧久万高原庁舎整備事業費

久万高原庁舎建替に伴い、久万高原町が林産地であるという特性にも配慮して、ＣＬＴの活用をはじめとした庁舎の木質化を実施します。

1 ポイント

新庁舎は、「①木造化と防災拠点機能の維持」「②ＣＬＴを活用したシンボリックな庁舎」「③カーボンニュートラルへの貢献」を３本柱に設計されており、県産原木を使用した「焼杉板」の外装や内装の木質化のほか、構造材に県内最大級のＣＬＴを使用しており、県産材の需要拡大にも貢献している。

地域住民も利用する新庁舎を最大限木質化することによって、久万高原町の主要産業である林業をＰＲするほか、地域住民の木材に対する理解や関心を一層深めるとともに、地域の防災拠点として、木造の耐久性や安全性も啓発できる。

2 事業内容

- 整備場所 上浮穴郡久万高原町久万 571 番 1
- 構造 1 階 RC 造、2 階 W 造
- 敷地面積 1,872.25 m²
- 延床面積 1,237.75 m²
- 入居予定 久万高原土木事務所、久万高原農業指導班、農村整備第一課久万高原駐在、久万高原森林林業課
- 供用開始 令和 7 年 11 月（予定）

3 令和 7 年度予算額 16,000 千円（全体事業費 619,728 千円）

4 事業期間 令和 7 年度

5 全体計画

事業内容		R7	計
計画	木材使用量	317m ³	317m ³
	事業費	619,728 千円	619,728 千円
	うち森林環境税	16,000 千円	16,000 千円
実績	木材使用量	m ³	m ³
	事業費	千円	千円
	うち森林環境税	千円	千円
実施箇所		上浮穴郡 久万高原町	

⑨駐在所等整備事業費

人と環境にやさしい自然素材である木材を使用して、地域の治安環境を確保するため、老朽化した駐在所を新築整備します。

1 ポイント

交番・駐在所は、地域の治安環境確保に必要不可欠な施設であることから、警察事象の複雑化、多様化に対応できるように、老朽化が著しい施設の整備を進め、併せて木材のぬくもりに触れることにより、地域住民に気軽に利用される施設を目指します。

2 事業内容

- (1) 事業個所 大洲警察署長浜交番
- (2) 施設概要 木造 2 階建 85.55 m²
事務室、相談室、仮眠室ほか
- (3) 整備内容 交番新築及び既存交番の解体撤去

3 令和 7 年度予算額 3,000 千円 (全体事業費 69,205 千円)

4 事業期間 令和 7 年度 ～ 令和 8 年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	ふれあう人数	370人	370人				740人
	事業費	69,205 千円	15,238 千円	千円	千円	千円	84,443千円
	うち森林環境税	3,000 千円	0 千円	千円	千円	千円	3,000千円
実績	ふれあう人数						
	事業費						
	うち森林環境税						
実施箇所		長浜交番 (新築)	長浜交番 (解体)				

⑩松山城北特別支援学校（仮称）整備事業費

松山城北特別支援学校（仮称）校舎整備において、内装の一部に県産材を使用し、空間に温かみを持たせ、児童生徒が安心して過ごせる環境を整える。

1 ポイント

みなら特別支援学校松山城北分校を拡充し、中予地域北部の知的障がい教育の拠点となる小・中・高一貫の「松山城北特別支援学校（仮称）」を開設するために、松山城北特別支援学校（仮称）校舎整備において、内装の一部に県産材を使用することで、空間に温かみを持たせ、児童生徒が安心して過ごせる環境を整える。

2 事業内容

- (1) 事業箇所 愛媛県松山市馬木町 2325（松山聾学校敷地内）
- (2) 施設概要 校舎 軽量鉄骨造 2 階建て（延床 2,992 m²）
- (3) 整備内容 校舎新築
- (4) 整備効果 みなら特別支援学校の教室不足や人数増加による狭隘化が課題となっており、松山城北特別支援学校（仮称）を開設し、校舎を整備する。整備の中で特別支援学校の児童生徒が校舎に入ってくる昇降口に県産材の木材を使用することで、普段から木材に慣れ親しみ、木材による温かみのある環境の中で学校生活を送ることができる。

3 令和 7 年度予算額 8,000 千円（全体事業費 1,391,476 千円）

4 事業期間 令和 7 年度 ～ 令和 8 年度（校舎整備は 7 年度完了）

5 全体計画

事業内容		R7	R8	計
計 画	木材使用量	0.3m ³	81.2m ³	81.5m ³
	事業費	1,391,476 千円	471,434 千円	1,862,910 千円
	うち森林環境税	8,000 千円	8,000 千円	16,000 千円
実 績	木材使用量	m ³	m ³	m ³
	事業費			
	うち森林環境税			
実施箇所		愛媛県松山市馬木町 2325 松山城北特別支援学校（仮称）校舎	愛媛県松山市馬木町 2325 松山聾学校寄宿舎	

令和 7 年度 県指定事業

森とくらす活動 関係事業

① 県民と森との交流促進事業費

森林ボランティア活動をはじめとする県民の森林づくりに係る活動の支援や、フィールドとなる森林の提供などにより県民と森との交流を進めます。

1 ポイント

森林の利活用促進を図るため、愛媛県森の交流センターを拠点として、様々な情報提供をはじめ、個別の相談や現地での指導といった支援を積極的に行い、森林を利活用する活動への参加に向けた、県民の関心を喚起する。また、森林ボランティア団体が活用できる器具の整備や、県民が森林づくり活動を行えるようフィールドを提供する。

また、森林環境税を財源とした事業について、適切な実施と透明性の確保を図るため、愛媛県森林環境保全基金運営委員会を開催し、事業の調査・審議を行うとともに、森林環境税と同税活用事業の成果等を広く周知する。

2 事業内容

(1) 森とのふれあい活動フィールド運営整備事業	○愛媛県森の交流センターの運営 ・森林の利活用に関する情報の収集と発信、フィールド（森）の斡旋 等 ・森林ボランティア活動等に関する相談及び現地指導 ・森林環境税活用事業の実施支援 ○県民参加のフィールド整備提供事業 ・県民が手軽に、また身近に森林を利活用できるよう、拠点フィールドの環境整備等を行い、活動に必要な安全具、機械類等を配備し、貸出を行う。 ○企業の森づくり促進支援事業 ・企業によるCSR活動としての森林づくり活動を支援するために、フィールド設定のための現地調査を実施する。
(2) 森林人育成事業	○少年自然愛護活動事業 ・県民参加型の森づくりを推進するための人材を育成するため、各地域で要望に応じ森林・林業教室を開催するほか、技術的な支援を行う。 ○森林ボランティア活動機械等の整備 ・森林ボランティア団体等が安全で気軽に山づくりができるように、必要な器具を整備し、貸出体制を整える。
(3) 愛媛県森林環境保全基金運営委員会の運営	森林環境税を財源とした事業について、調査・審議を行うため、委員 10 名からなる愛媛県森林環境保全基金運営委員会を開催する。 森林環境税の制度内容及び実施事業について、広く県民に普及啓発するために、普及啓発冊子等を配布する。

3 令和7年度予算額

23,552千円

4 事業期間

令和7年度～令和11年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	森の交流センター相談件数	2,000 件	2,000 件	2,000 件	2,000 件	2,000 件	10,000 件
	身近なフィールド設置箇所数	5箇所	5箇所	5箇所	5箇所	5箇所	25箇所
	ボランティア人数	200人	200人	200人	200人	200人	1,000人
	拠点フィールド	800人	800人	800人	800人	800人	4,000人
	事業費（千円）	23,552	23,552	23,552	23,552	23,552	117,760
	うち森林環境税	23,552	23,552	23,552	23,552	23,552	117,760
実績	森の交流センター相談件数						
	身近なフィールド設置箇所数						
	ボランティア人数						
	拠点フィールド						
	事業費（千円）						
	うち森林環境税						

※「えひめ山の日の集い」は、えひめ森林公園魅力発信事業において実施。

②「森に親しむ博物館」開催事業費

総合科学博物館を会場に、森林をテーマにした展示会「森に親しむ博物館」を開催します。その関連イベントとして展示解説会、親子で森林に親しむ工作イベントや自然観察会を実施します。これらの事業を通じて、森林を保全することによって維持される生物多様性や人と森林が共生する大切さについて、子育て世代を中心とする幅広い世代に森林への理解を深め、森林と共生していく文化の創造や環境教育に貢献します。

1 ポイント

- (1) 展示会では、第76回全国植樹祭開催を含む森林に関する情報を積極的に発信するため、第4期に引き続き季節を問わず森林環境を理解する上で教育効果の高い植物レプリカ標本や県産材の展示ケース等を作製し、他の各種標本や森林の写真パネル等の収蔵資料を活用する。
- (2) 開催期間中に学芸員が展示物を解説する展示解説会と親子で楽しむ工作イベントを実施する。関連イベントのひとつとして「とべもり+（プラス）」と連携し、えひめ森林公園で自然観察会を実施する。

2 事業内容

- (1) 展示会 森に親しむ博物館 入場料：無料

会 場	場 所	開催時期
総合科学博物館（新居浜市）	1階ロビー	9～11月

展示構成

コーナー名	内 容
森の植物	新作した植物レプリカ標本を中心に、県下に分布する貴重な植物を紹介
森のいきもの	森にすむ昆虫等の標本を展示

- (2) 関連イベント

- ア 展示解説会の開催
科博学芸員による展示の解説を行う。
- イ 工作イベントの開催
科博において木の葉やタネ等を材料にした工作イベントを年2回開催する。
- ウ 自然観察会の実施
とべもり+（プラス）と連携し自然観察会を実施する。

3 令和7年度予算額 4,015千円

4 事業期間 令和7年度～令和11年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	合計
計 画	「森に親しむ博物館」観覧人数(人)	19,700	20,100	20,500	20,900	20,900	102,100
	ミュージアムツアー参加人数(人)	50	50	50	50	50	250
	工作イベント参加人数(人)	100	100	100	100	100	500
	自然観察会参加人数(人)	30	30	30	30	30	150
	事業費(千円)	4,015	4,015	4,015	4,015	4,015	20,075
	うち森林環境税(千円)	4,015	4,015	4,015	4,015	4,015	20,075
実 績	「森に親しむ博物館」観覧人数(人)						
	ミュージアムツアー参加人数(人)						
	工作イベント参加人数(人)						
	自然観察会参加人数(人)						
	事業費(千円)						
	うち森林環境税(千円)						
実施箇所		展示1回, 工作イ ベント2回, 観 察 会 1 回	展示1回, 工作イ ベント2回, 観 察 会 1 回	展示1回, 工作イ ベント2回, 観 察 会 1 回	展示1回, 工作イ ベント2回, 観 察 会 1 回	展示1回, 工作イ ベント2回, 観 察 会 1 回	

③アートの森プロジェクト事業（美術館展示事業費）

県民の文化芸術の拠点となっている県美術館で、県産材により作成した額や展示台等による展示事業や関連イベントを展開することで、優れた県産材の魅力をアピールします。

1 ポイント

新たに県産材を使用した額や展示台等を新規作成し、これらを使用して「森林」に関する芸術作品を活用した展覧会を、子どもたちの学校団体利用の多い本館で開催することで、県産材の魅力を作品鑑賞を機に子どもを始めとした県民に広く伝えることができます。また、展示内容と関連し、県産材を活用したイベントを会期中に開催することで、森林と美術についての理解を深める機会を提供するものです。

2 事業内容

- (1) 県産材による額や看板等の作成
- (2) 上記の額や看板等を使用したコレクション展「森のなぞなぞ美術館」の開催
内容：家族連れの利用が多い夏休みを含む会期で、国定公園指定 70 周年を迎える節目の年に「石鎚山」をテーマにしたコレクション展を開催する。また、県内で活躍する現代作家を招聘し、県産材を使用した新作の制作等依頼し、アートを楽しみながら森林へ親しむ機会を提供する。
時期：令和 7 年 6 月～令和 7 年 9 月（コレクション展Ⅱ）
場所：本館 2 階 常設展示室 1・2
料金：有料（コレクション展観覧料）
- (3) 上記会期中の関連イベントの実施
 - 1. ワークショップ・対話型鑑賞プログラム
学芸員による木を使用したワークショップ、担当学芸員による対話型鑑賞プログラムを行う。
 - 2. レクチャー
担当学芸員による展示に関連するオンライン講座を 1 回以上開催する。
 - 3. 特別イベント
本県出身のイラストレーター作家を講師として招聘し、木を使用したイベントを開催する。
※木枠を使用したワークショップ、コレクション展と連動した公開制作を予定。

3 令和 7 年度予算額 1, 5 0 0 千円（全体事業費 2, 3 8 0 千円）

4 事業期間 令和 7 年度 ～ 令和 11 年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	ふれ合う人数	11,000人	15,000人	11,000人	11,000人	15,000人	63,000人
	事業費	2,380 千円	6,160 千円	2,160 千円	2,860 千円	4,260 千円	17,820 千円
	うち森林環境税	1,500 千円	5,500 千円	1,500 千円	2,200 千円	3,600 千円	14,300 千円
実績	ふれ合う人数						
	事業費						
	うち森林環境税						
実施箇所		愛媛県美術館	愛媛県美術館	愛媛県美術館	愛媛県美術館	愛媛県美術館	愛媛県美術館

④えひめ森林公園魅力発信事業費（一部森林環境税事業）

えひめ森林公園の来園者を増やし、県民と森とのふれあいを促進するため、とべもりプラス連携事業による周遊イベントのほか、森林公園の魅力あふれる森林体験イベントを実施し、とべもりプラスへの誘客促進と全国植樹祭の機運醸成を図ります。

1 ポイント

えひめ森林公園の来園者数を増やし、森とのふれあいを促進するため、令和6年度のリニューアルや有料化、第76回全国植樹祭の開催を契機に、連携体験イベント等を実施し、とべもり+（プラス）への誘客促進と全国植樹祭の機運醸成を図ります。

2 事業内容

（1）とべもり^{プラス}との連携事業

①オリジナルグッズ開発及び特設ガチャイベント

とべもり^{プラス}ロゴマークや各施設の特徴を活用した木製（県産材）オリジナルグッズを開発し、夏休みと「とべもり+GO!GO!WEEKS」に合わせて特製ガチャイベントを実施。

②とべもり^{プラス}+GO!GO!WEEKS

4施設で「共通テーマ」を設定し、テーマに沿った各施設の特徴・魅力が伝わるリアルイベントを「同時期」に開催するGO!GO!WEEKS中に、森林公園において全国植樹祭の機運醸成に繋がるイベントを実施。

③とべもり^{プラス}+の魅力発信

とべもり^{プラス}+共通HP等で各種SNS（YouTube、Instagram等）を使用したターゲティング広告（情報を各施設のターゲット層に向けて確実に発信）を行い、とべもり^{プラス}+の一体的認知度向上を図り、来園者の増加を図る。

（2）森林公園体験イベント

①えひめ山の日集い

「えひめ山の日」を県民に広く普及するとともに、県民参加の森林づくりを推進するため、「えひめ山の日集い」を開催する

②森林婚活イベント

キャンプ場や木製遊具などを活用した出会いイベントを実施。

③ESDプログラム及び研修会

ESD拠点として、小・中学生向けプログラムを教育者研修を実施。

3 令和7年度予算額

9,877千円（全体事業費11,794千円）

4 事業期間

令和7年度～令和11年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	来園者数	14万人	15万人	15万人	15万人	15万人	74万人
	事業費	11,794千円	11,794千円	11,794千円	11,794千円	11,794千円	58,970千円
	うち森林環境税	9,877千円	9,877千円	9,877千円	9,877千円	9,877千円	49,385千円
実績	来園者数						
	事業費						
	うち森林環境税						
実施箇所							

⑤森林カーボンオフセット促進事業費

カーボン・クレジットを民間に売り込む機会を創出するとともに、本県からの森林由来によるクレジット発行を促し、排出権取引を活性化させることでカーボンオフセットを促進する。

1 ポイント

創出済みクレジットの効果的な販売と、需要が高まる一方、専門性や労力から創出が進んでいない森林由来クレジットの発行を促すことで、二酸化炭素削減への貢献や森林吸収量の価値化による森林所有者等への資金還元を促進し、持続可能な森林経営と林業の活性化につなげます。

2 事業内容

事業名	事業内容
(1) 企業とのマッチング促進	販売ノウハウと企業情報を有する金融機関との連携により、販売促進のためのマッチングを行う。 クレジットの発行が可能な森林所有者や森林組合等に対してセミナー等を通じて創出を促す他、販路の確保に取り組む。
(2) セミナー等研修会の開催	クレジットの発行が可能な森林所有者や森林組合等に対してセミナー等研修会を通じて創出を促す他、個別相談等に対応する。

3 令和7年度予算額 2,772千円

4 事業期間 令和7年度 ～ 令和11年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	県産森林クレジット販売量	200t-CO2	200t-CO2	200t-CO2	200t-CO2	200t-CO2	1,000t-CO2
	県民参加人数	50人	50人	50人	50人	50人	250人
	事業費	2,772千円	2,772千円	2,772千円	2,772千円	2,772千円	13,860千円
	うち森林環境税	2,772千円	2,772千円	2,772千円	2,772千円	2,772千円	13,860千円
実績	県産森林クレジット販売量						
	県民参加人数						
	事業費						
	うち森林環境税						
実施箇所		県下全域	県下全域	県下全域	県下全域	県下全域	県下全域

令和 7 年度 公募事業

公募事業

県民参加の森林づくり公募事業

県民の皆様の豊かな発想を施策に反映するとともに、県民の皆様が自発的に取り組む森林の利活用等の活動を支援することで、森林に対する県民参加の具体化を図るため、広く県民の皆様からの事業提案を募集します。

1 ポイント

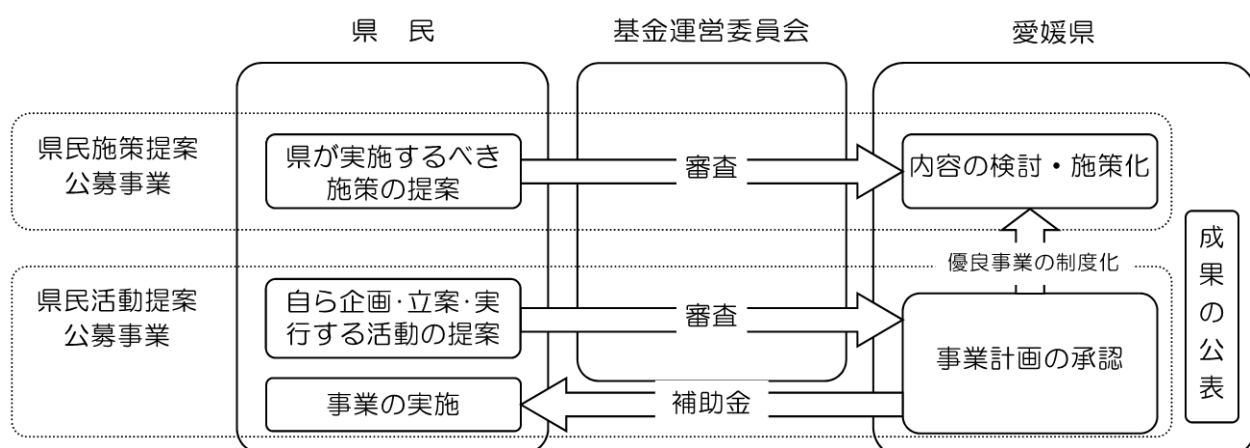
「森林環境税」が目指す、「森林環境の保全」と「森林と共生する文化の創造」を県民と一体となって推進するため、県として取り組む森林環境税事業としてふさわしい施策を、広く県民から公募します。

また、県民参加の具体性を確保し、県民の自発的な活動を促進するため、県民自らが企画・立案・実行する活動を公募し、補助するほか、補助した事業については、他の県民にも波及するよう制度化するとともに、必要に応じて県としての施策化を検討します。

2 事業内容

愛媛県森林環境保全基金公募事業募集要領(平成 17 年度制定)に基づき、以下のとおり県民及からの事業提案を募集する。

(1) 県民施策提案公募事業	【事業概要】 森林環境税を財源として県が実施するべき施策を広く県民から募集し、審査・検討のうえ、県実施事業としてふさわしいものについて施策化を検討する。
(2) 県民活動提案公募事業 事業費 15,000 千円	【事業概要】 森林環境税の趣旨に即し、県民が自ら企画・立案・実行する活動を広く募集し、審査・選定のうえ、適当と認めるものについては、事業実施に要する必要最小限の経費に対し、補助金を交付する。 【対象となる事業の概要】 ◆森をつくる活動：放置森林、放置竹林、里山林等の整備活動、アウトリーチ活動を伴う研究等 ◆木をつかう活動：木材利用推進活動、木工広場の開催、アウトリーチ活動を伴う研究等 ◆森とくらす活動：森林環境教育、アウトリーチ活動を伴う研究等 【補助率】 事業費 500 千円以下の部分 10/10 以内 事業費 500 千円を超える部分 1/2 以内 ※ただし 1 件あたり補助額 1,250 千円を上限とする。



3 令和7年度予算額 15,000千円（全体事業費15,000千円）

4 事業期間 令和7年度 ～ 令和11年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	R9	R10	R11	計
計画	公募事業参加者数（人）	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	75,000
	事業費（千円）	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	75,000
	うち森林環境税（千円）	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	75,000
実績	公募事業参加者数（人）						
	事業実施件数（実施件数）						
	事業費（千円）						
	うち森林環境税（千円）						
実施箇所		県下全域	県下全域	県下全域	県下全域	県下全域	

※事業の選定は、愛媛県森林環境保全基金運営委員会及び県による審査・検討のうえ、決定する。

令和 7 年度 積立金

全国植樹祭開催準備費

全国植樹祭開催準備費（一部森林環境税事業）

令和8年春の第76回全国植樹祭えひめ2026の開催に向け、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めることを目的として着実に準備を進めるとともに、大会に向けた機運を醸成します。

1 ポイント

県民共有の財産である森林の重要性や木材利用に対する理解を深めるため、第76回全国植樹祭えひめ2026の開催準備を進めるとともに、県民から森林・林業などへのメッセージを募集し、大会演出等に活用する県民参加型の「明日の森林へ贈る愛レタープロジェクト」をはじめ、1年前記念イベントや苗木のスクールステイ（育成体験）等の広報啓発活動を通じて、県民参加による森づくりを推進していきます。

2 事業内容

令和7年度は、大会運営のより詳細な計画となる「実施計画」を策定するほか、式典等の大会運営やお野立所等の会場整備、招待者の宿泊輸送体制の構築などの準備を進めるとともに、愛レタープロジェクトや1年前記念イベント等により、大会に向けた機運の醸成を図ります。

項 目	概 要
(1) 実行委員会関係	総会・幹事会・専門委員会の開催
(2) 全体計画関係	実施計画の策定
(3) 会場整備・会場設営関係	式典会場整備、お野立所建設、式典備品製作、植樹会場整備 等
(4) 招待者宿泊輸送関係	招待者の宿泊・輸送準備 等
(5) 広報啓発・機運醸成関係	愛レタープロジェクトの展開、1年前記念イベント等の開催 苗木のスクールステイの実施、植樹祭だよりの発行 等
(6) 植樹行事関係	植樹行事の苗木確保、植樹イベントの開催 等
(7) 関連事業	全国植樹祭関連行事(全国林業後継者大会)の準備

3 令和7年度予算額 108,651千円（全体事業費268,127千円）

内訳	
全国植樹祭積立金事業	: 106,867千円
県指定事業（森をつくる⑬）	: 1,784千円

4 事業期間 令和7年度 ～ 令和8年度

5 全体計画

事業内容		R7	R8	計
計 画	森とふれあう活動 への参加人数	5.3万人	5.7万人	11.0万人
	事業費	268,127千円		
	うち森林環境税	108,651千円	200,000千円	308,651千円
実 績	森とふれあう活動 への参加人数			
	事業費			
	うち森林環境税			
実施箇所・県内 県内		県内		